

# 伊勢市教育委員会の学力向上に向けた取組

～令和5年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえて～

## 1 確かな学力と社会を形成する力の育成

これからの日本社会は、将来の予測が困難な複雑で変化の激しいものとなるといわれています。そのような社会で生きる子どもたちには、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱からなる「資質・能力」を総合的にバランスよく育ていく必要があります。また、今後、子どもたちが社会で自立し、他者と協働しながら新たな価値を創造していく力を身に付けるためには、課題の発見と解決に向けて主体的・対話的で深い学びを実現させなければなりません。

そこで、教員が子どもたちの学習における状況を丁寧に把握したり、自ら指導方法を不断に見直し、改善したりしていくことが必要です。そのため以下の事業を通して、幼稚園、小・中学校等が連携し取組を進めることができるよう支援しています。

### 1 学力の育成

#### (1) 学力向上推進事業

- ・児童生徒の学習到達度を明らかにし、個に応じたきめ細かな指導に生かすために目標基準準拠検査（CRT）を市内全小中学校で実施しています。
- ・研究校を指定し、教育課程に係る実践研究を進めています。
- ・研究校を指定し、教科担任制に係る実践研究を進めています。

#### (2) GIGA スクール構想の推進

- ・1人1台端末等 ICT を活用し、「個別最適な学び」「協働的な学び」を推進し、そのための活用に係る教員研修の実施やコンピュータ等機器の環境整備を進めています。
- ・情報教育推進委員を核に、情報リテラシーや情報モラル等の情報活用能力の育成に向けた取組の充実を図っています。
- ・学校への ICT 機器整備及び iPad の活用を推進するため、ICT 支援員を計画的に派遣し、教員間の情報共有や授業等での活用について充実を図っています。

### 2 グローバル教育の推進

#### (1) エンジョイイングリッシュ事業

- ・小学校では、外国語によるコミュニケーション能力の素地や基礎を養うために、ALT との交流を行っています。
- ・研究校を指定して、小中接続の授業の充実とともに、効果的なカリキュラムを目指し、研究実践を行っています。
- ・中学校では、スピーチコンテストを開催し、授業の成果を発表する場を設けています。
- ・小中学生を対象に、英語検定にチャレンジすることを通して、英語への関心意欲を高めるため、英語検定料の補助を行っています。

#### (2) ALT 活動事業

- ・小学校では、3、4年生で外国語活動、5、6年生で外国語科が実施され、ALT は、担当教員が行う授業を補助しています。
- ・ALT は小学校1、2年生では、歌やゲームを中心とした外国語の活動や国際理解教育を行っています。また、異文化理解のため、ALT が行事等に参加し、様々な場面で児童と交流できるようにしています。
- ・中学校では、ALT が授業に加わることで、生徒の生きた英語に触れる機会を増やし、授業が実際のコミュニケーション場面の1つとなるようにしています。

### 3 主体的に社会を形成する力の育成

#### (1) 豊かな心を育む体験交流活動支援事業

- ・「社会参画力向上推進事業」として事業推進校を指定し、自然や環境、文化、ボランティア等に関する体験・交流学习、地域とのふれあいを通じた体験活動、創意工夫を生かした学習活動を行っています。
- ・「きらり自然体験活動推進事業」として事業推進校を指定し、校外での自然体験活動、学校へ講師を招いての自然体験活動、環境活動を行っています。
- ・「ふれる・つくる・かんじる自然体験プログラム」として実施校において、校外の自然体験活動と校内での製作活動を組み合わせ、体全身で自然に触れたり感じたりする活動を行っています。
- ・中学生が助産師や思春期保健相談士からののちについての講義を聞いたり、赤ちゃんとふれあう機会をもったりして、自分や他者のいのちの大切さを知ること、共感能力や自己肯定感を高める機会を設定しています。

#### (2) 環境教育の推進

- ・学校や地域の実態に応じた特色ある環境教育・環境保全に関する取組を実施しています。
- ・環境教育出前授業を積極的に活用した実践や、県内の公的機関・ボランティア団体等と連携した環境教育を推進していきます。

### 4 キャリア教育の推進

#### (1) 未来へチャレンジ！職場体験推進事業

- ・キャリア教育の一環として、中学校2年生において職場体験活動を行っています。将来さまざまな生き方や進路選択の可能性があること等の学習を通して、生徒の勤労観・職業観を育てています。
- ・地元企業のボランティア（ビジネスパーク伊勢）の協力による出前授業の実施により「地域の子どもは地域で育てる」という気運を高めています。

### 5 幼児教育の推進

#### (1) 保幼小の連携

- ・途切れのない支援を充実させるため、保幼小が連携できるように、教育・保育の参観の機会拡大や情報交換の機会を設けています。

#### (2) 教育研究プロジェクト（幼稚園教育）

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を明確化し、発達段階を踏まえた幼稚園教育のあり方について委託研究を進めています。
- ・公開保育研究会の案内を小中学校教員にも発信し相互理解と連携を図っています。

#### (3) 研修講座の実施（乳幼児教育専門講座）

- ・乳幼児教育に係る今日的な課題を研修講座のテーマとして設定し、県内外の専門家を講師に迎え、幼稚園教員、保育士、小中学校教員等とともに実践的に学んでいます。

## 2 令和5年度全国学力・学習状況調査の伊勢市の結果

### 1 令和5年度全国学力・学習状況調査について

#### (1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### (2) 調査日

令和5年4月18日（火）実施

#### (3) 対象者

市内全小学校の第6学年（994名）、全中学校の第3学年（888名）で実施

#### (4) 調査科目

小学校：国語、算数

中学校：国語、数学、英語

#### (5) 調査内容

##### ① 教科に関する調査

- ・ 出題内容は、下記アとイを一体的に問うもの

ア 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

イ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査問題は学習指導要領（小学校調査においては平成29年告示、中学校調査においては平成30年告示）に示された目標及び内容等に基づいて作成。

##### ② 生活習慣や学習環境等に関する調査

- ・ 児童生徒に対する学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

（児童・生徒質問紙）

- ・ 学校に対する指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

（学校質問紙）

#### (6) 調査結果についての考え方

- ・ 伊勢市の教育施策・各学校の教育の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要であると考えています。
- ・ 調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることを踏まえ、調査結果を活用しています。

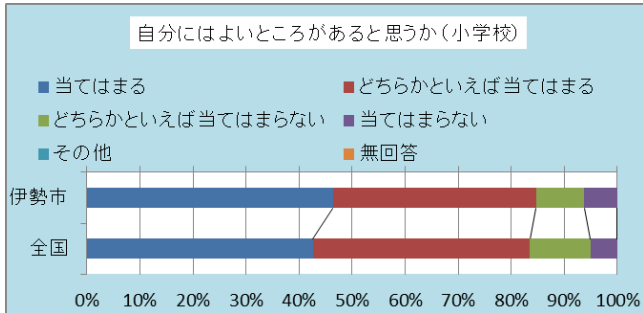
## 2 学校質問紙・児童生徒質問紙の調査結果

学校質問紙・児童生徒質問紙から伊勢市の学校の様子・子どもの様子を見ていきます。

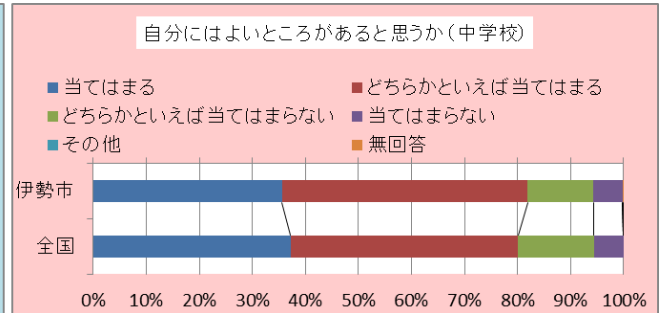
※以下、小学校対象の学校質問紙は（小学校）、中学校対象の学校質問紙は（中学校）、小学生の児童質問紙は（児童）、中学生の生徒質問紙は（生徒）と記載。小学校のグラフの背景は水色、中学校はピンク色にしました。

※1%未満は、グラフには記載されていません。

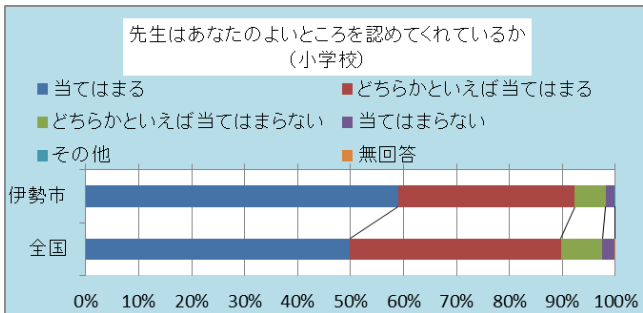
### (1) 自己有用感



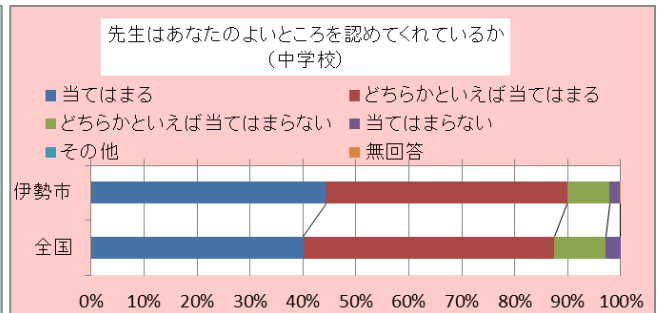
グラフ1 (児童)



グラフ2 (生徒)



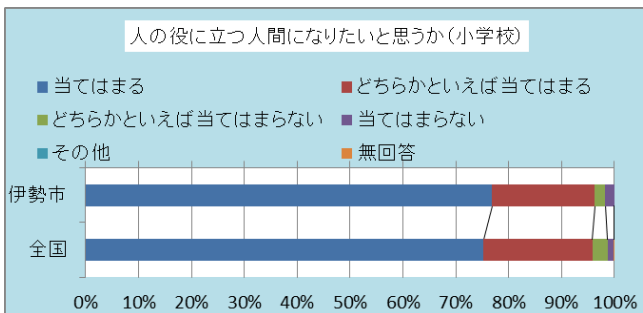
グラフ3 (児童)



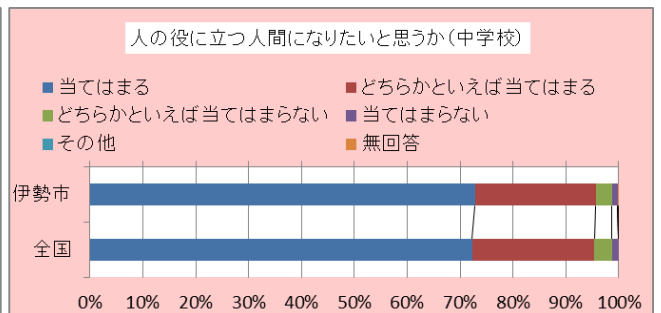
グラフ4 (生徒)

グラフ1・2は「自分にはよいところがあると思うか」を聞いたものです。昨年度、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した子どもの割合は、小学校において全国の割合を下回っていましたが、今年度は小・中学校ともに全国の割合を上回っています。

グラフ3・4は「先生はあなたのよいところを認めてくれているか」を聞いたものです。小・中学校ともに全国の割合を上回っていました。



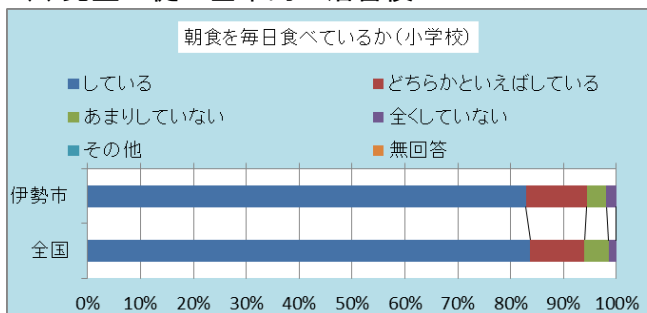
グラフ5 (児童)



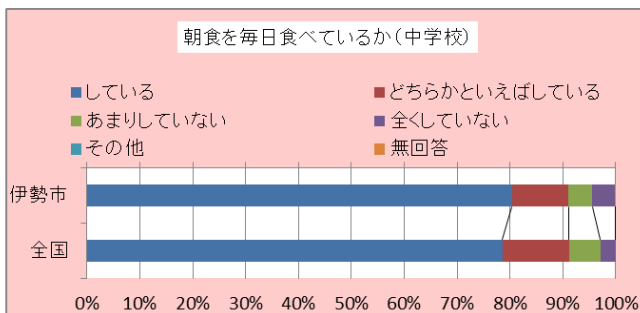
グラフ6 (生徒)

グラフ5・6は「人の役に立つ人間になりたいと思うか」を聞いたものです。「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した子どもの割合は、小・中学校ともに全国の割合を上回っていました。

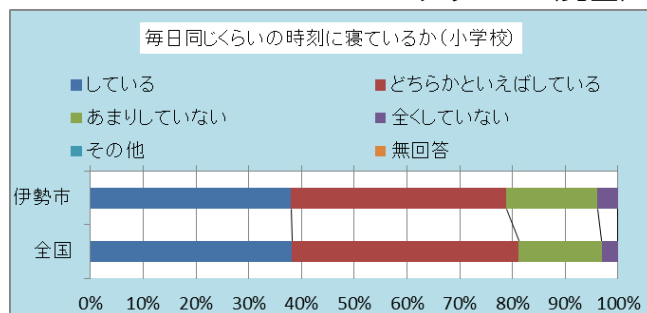
## (2) 児童生徒の基本的な生活習慣について



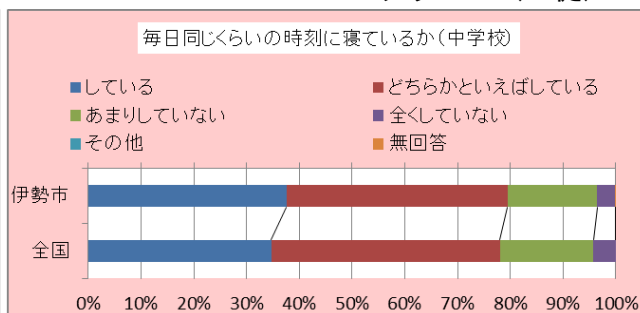
グラフ7 (児童)



グラフ8 (生徒)



グラフ9 (児童)

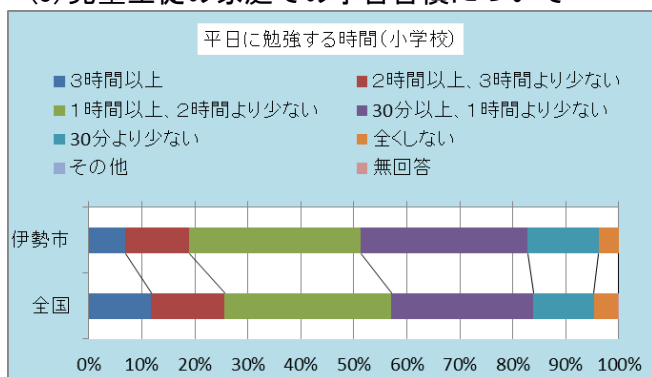


グラフ10 (生徒)

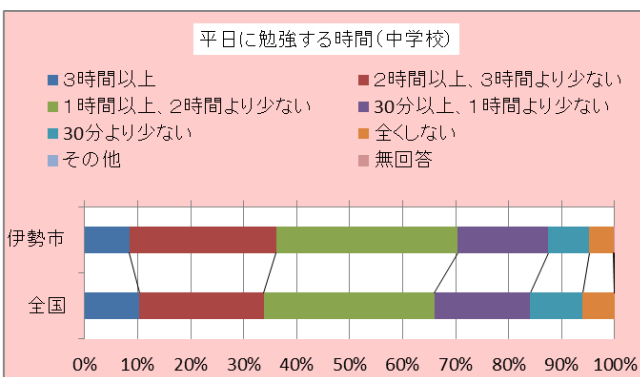
グラフ7・8は「朝食を毎日食べているか」、グラフ9・10は「毎日同じくらいの時刻に寝ているか」を聞いたものです。中学校では「している」、「どちらかといえば、している」と回答した子どもの割合は、全国の割合を上回っています。

一方、小学校では、基本的な生活習慣に課題がみられます。

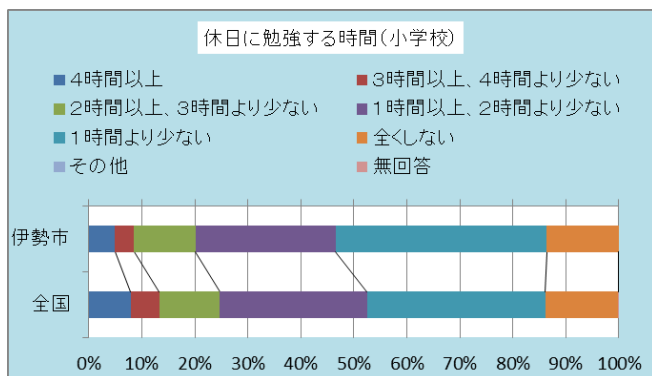
## (3) 児童生徒の家庭での学習習慣について



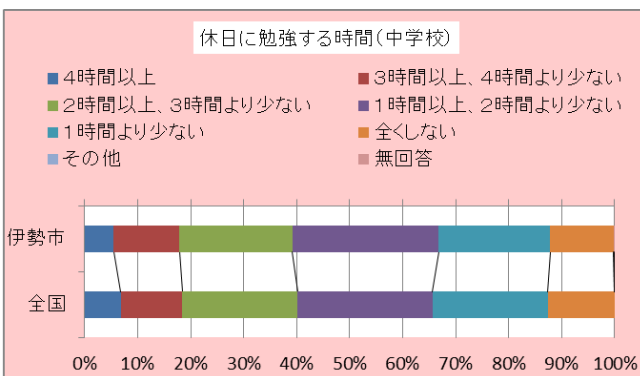
グラフ11 (児童)



グラフ12 (生徒)



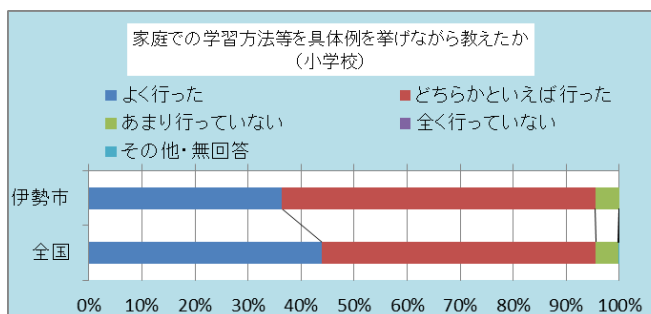
グラフ13 (児童)



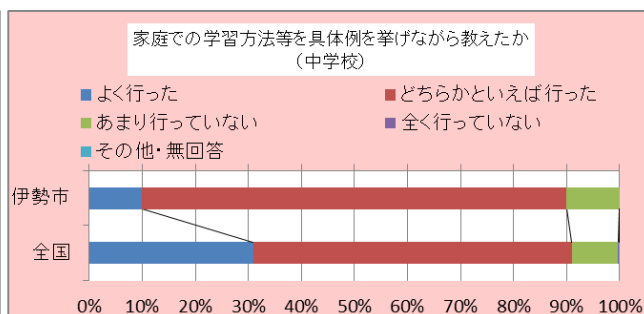
グラフ14 (生徒)

グラフ 11・12 は「平日に勉強する時間」を聞いたものです。伊勢市では、「1時間以上」と回答した子どもの割合は、小学校で全国の割合を下回っています。昨年度と比べて、全国の割合との差は縮まったものの、いまだ全国の割合との差は大きいです。中学校では、昨年度に引き続き、全国の割合を上回っています。

一方、グラフ 13・14 は「休日に勉強する時間」を聞いたものです。伊勢市では、中学校は昨年に引き続き全国の割合を上回っていますが、小学校では、今年度も全国の割合を下回りました。

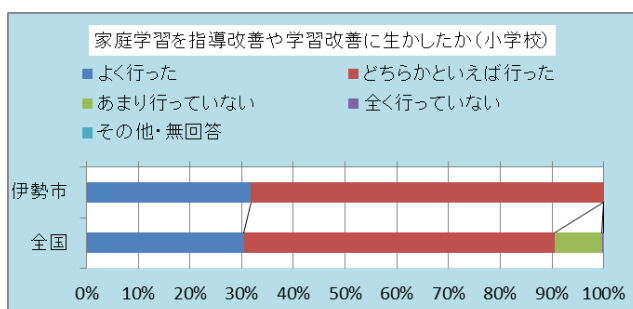


グラフ 15 (小学校)

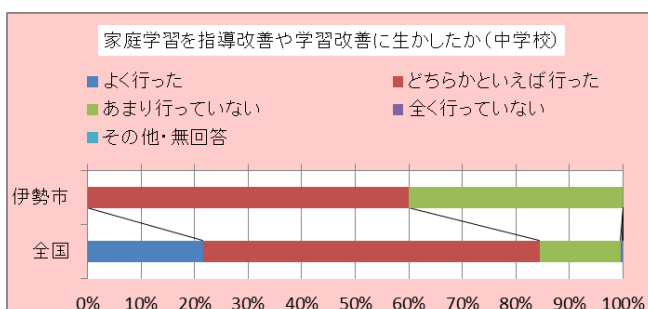


グラフ 16 (中学校)

グラフ 15・16 は学校に対して、「家庭での学習方法等について具体例を挙げながら教えたか」を聞いたものです。「よく行った」、「どちらかといえば行った」と回答した割合は全国の割合とほぼ同数値でした。しかし、「よく行った」と回答した割合は全国の割合を大きく下回っており、改善の必要があります。

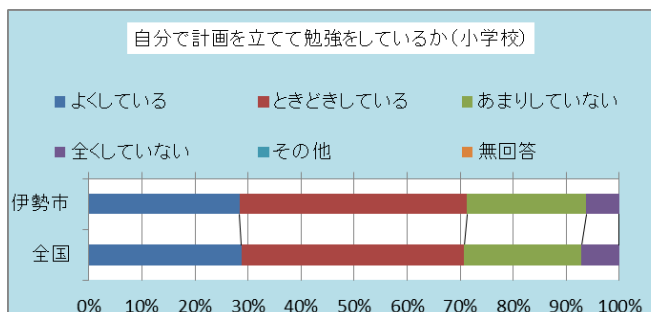


グラフ 17 (小学校)

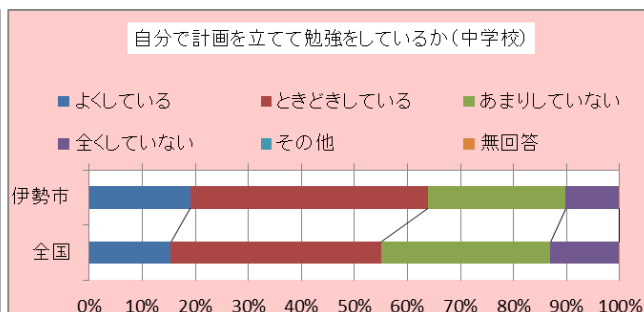


グラフ 18 (中学校)

グラフ 17・18 は学校に対して、「家庭学習を指導改善・学習改善に生かしたか」を聞いたものです。小学校ではすべての学校において肯定的な回答となりましたが、中学校においては全国の割合を大きく下回っており、改善の必要があります。



グラフ 19 (小学校)

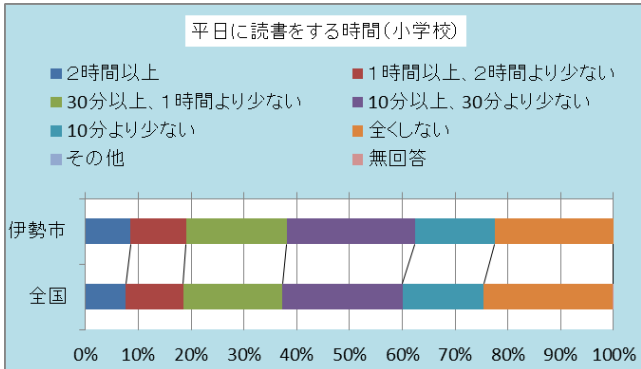


グラフ 20 (中学校)

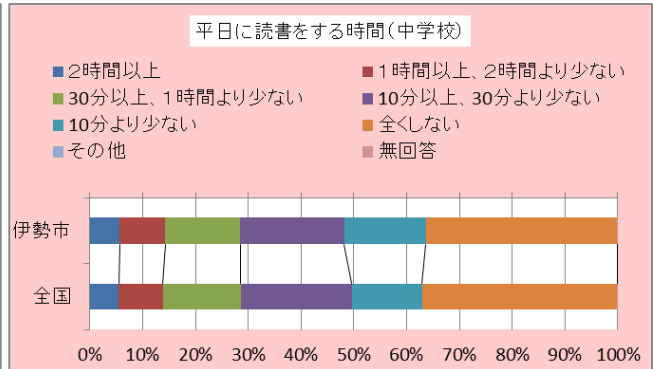
グラフ 19・20 は「自分で計画を立てて勉強をしているか」を聞いたものです。昨年度、小学校では、「よくしている」、「ときどきしている」と回答した割合が全国を下回っていましたが、今年度は全国を上回りました。一方、中学校では平成 31 年度以降、全国を上回っており、家庭での学習を計画的に実施していることがわかります。

家庭学習については、児童生徒質問紙調査と学校質問紙調査の結果を比較し、各学校において課題を明らかにするとともに、家庭学習について子ども及び保護者への働きかけについて検討する必要があります。

#### (4) 児童生徒の家庭での読書習慣について



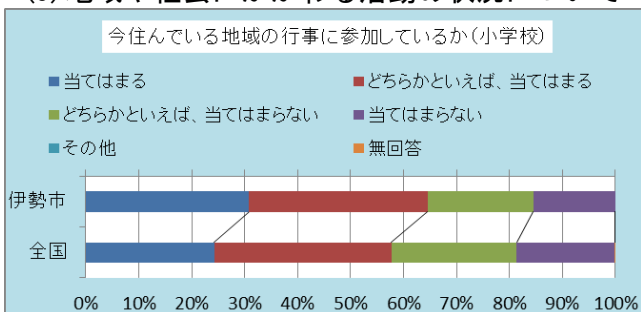
グラフ 21 (児童)



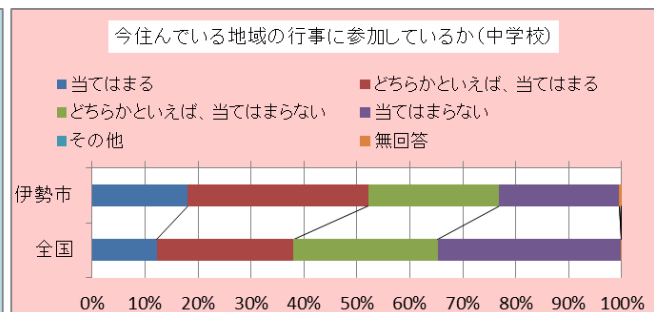
グラフ 22 (生徒)

グラフ 21・22 は「平日に読書をする時間」を聞いたものです。昨年度、「10分以上」と回答した割合は、小・中学校ともに全国の割合を下回っていました。今年度小学校では、全国を上回りました。中学校は全国を下回っているものの、全国との差は縮まっており、改善の傾向にあります。読書習慣の定着に向けて今後も取組を継続していきます。

#### (5) 地域や社会にかかわる活動の状況について

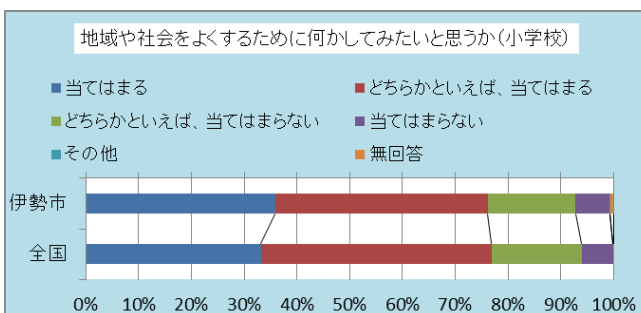


グラフ 23 (児童)

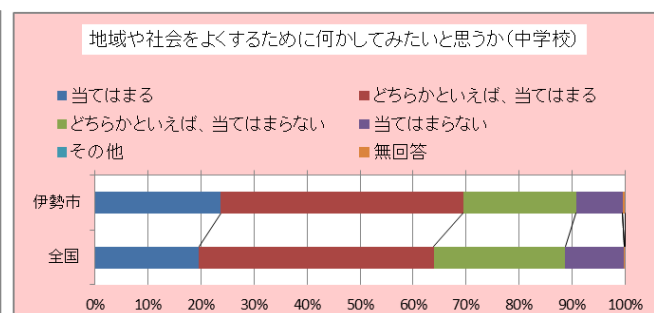


グラフ 24 (生徒)

グラフ 23・24 は「今住んでいる地域の行事に参加しているか」を聞いたものです。伊勢市では、小・中学校とも、「している」、「どちらかといえばしている」と回答した割合は、全国の割合を上回っており、地域との関わりの深さがよくわかります。



グラフ 25 (児童)



グラフ 26 (生徒)

グラフ 25・26 は「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか」を聞いたものです。伊勢市では、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合は、小学校では全国の割合を下回っています。一方、中学校では、全国の割合を上回っています。

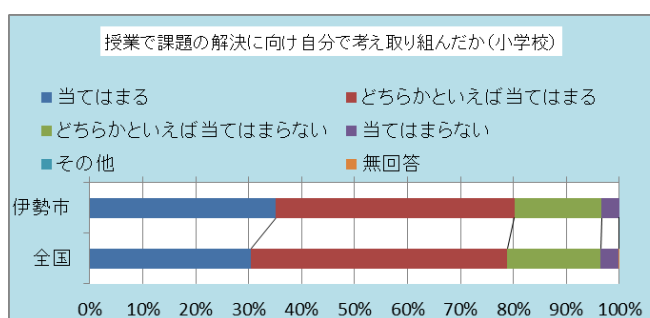
小学校では、社会科や生活科、総合的な学習の時間等の学習を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養っていく必要があります。

### (6) 主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善について

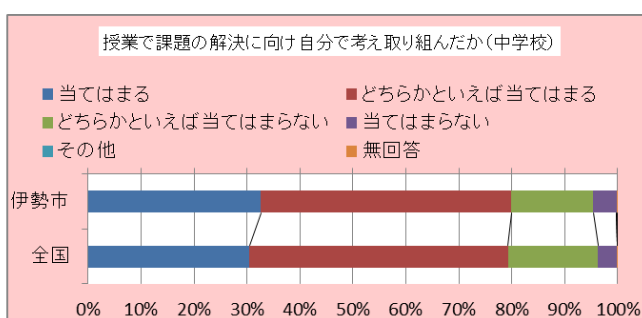
平成29年3月31日に学習指導要領が告示され、小学校では令和2年から、中学校では令和3年度全面実施されました。

今回の学習指導要領の改訂では、学ぶことに興味や関心をもち、毎時間見通しを持って粘り強く取り組むなどの「主体的な学び」、個人で考えたことを意見交換したり、議論したりすることで新たな考え方に気付いたりするなどの「対話的な学び」、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組むなどの「深い学び」の実現に向けた授業改善が求められています。

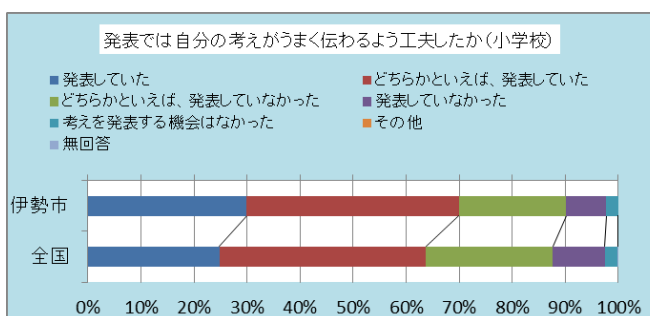
児童生徒質問紙では、以下の質問によって、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業の実践の状況を検証しています。



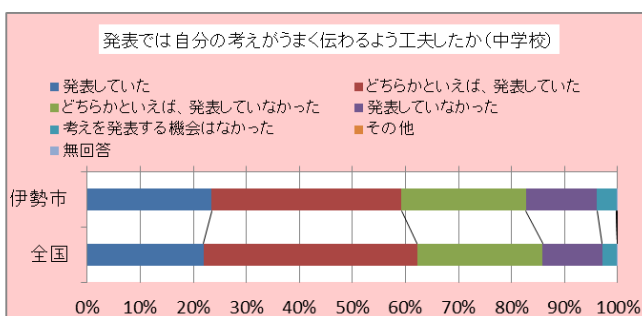
グラフ 27 (児童)



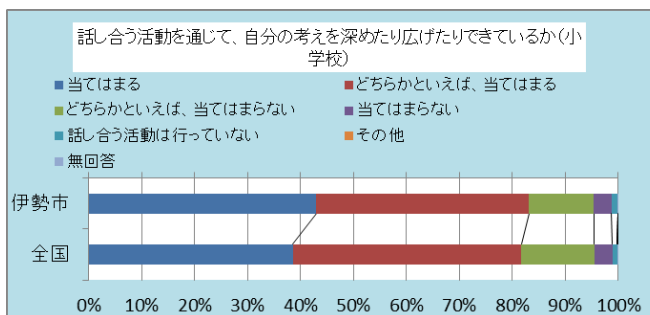
グラフ 28 (生徒)



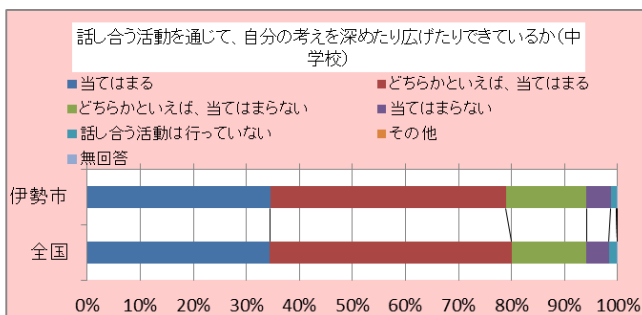
グラフ 29 (児童)



グラフ 30 (生徒)



グラフ 31 (児童)



グラフ 32 (生徒)

グラフ 27・28 は「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思うか」を聞いたものです。「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は、昨年度に引き続き小中学校とも全国の割合を上回っています。

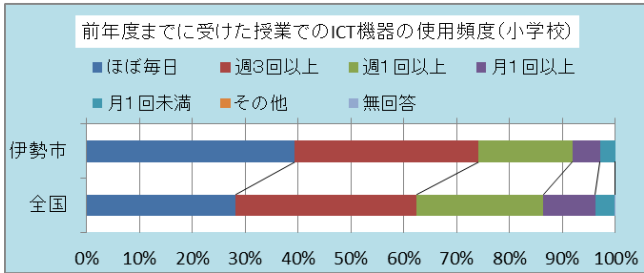
グラフ 29・30 は「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立て等を工夫して発表していたと思うか」を、グラフ 31・32 は「学級の友達



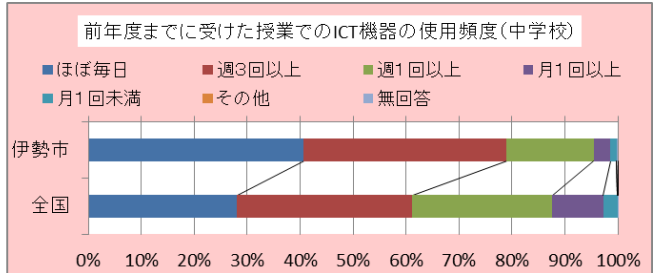
との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」を聞いたものです。「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は、小学校では昨年度からポイントを上げ、全国の割合を上回っていますが、中学校では、全国の割合を下回っています。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業改善に取り組んでいく必要があります。

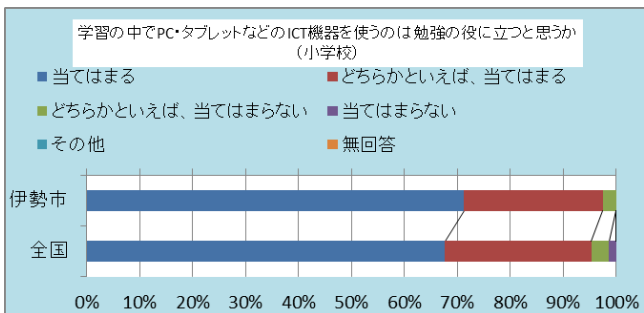
### (7) ICT 機器の活用について



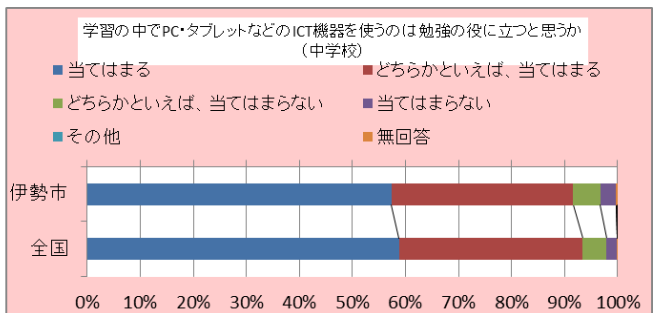
グラフ 33 (児童)



グラフ 34 (生徒)



グラフ 35 (児童)



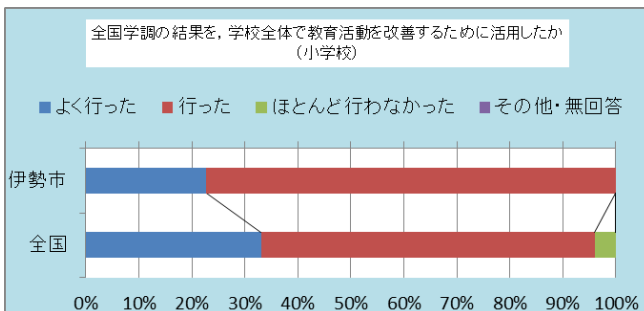
グラフ 36 (生徒)

グラフ 33・34 は「前年度までに受けた授業で、コンピュータなどの ICT 機器をどの程度使用したか」を聞いたものです。小・中学校ともに、全国の平均を大きく上回っており、日常的に ICT 機器が活用されていることがわかります。

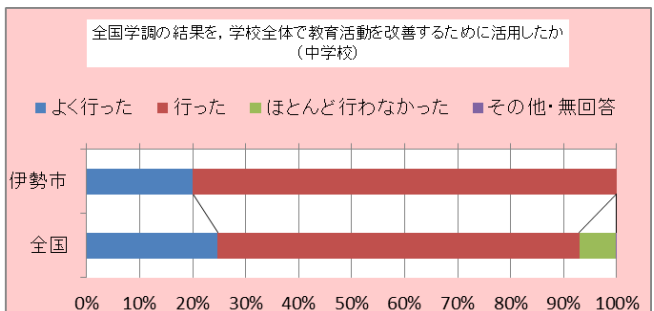
グラフ 35・36 は「学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思うか」を聞いたものです。小学校では、全国の割合を上回っていますが、中学校では全国を下回っています。

日常的に ICT 機器が活用されていますが、活用の場面を見極め、効果的に ICT 機器が活用されるよう取組を進めていく必要があります。

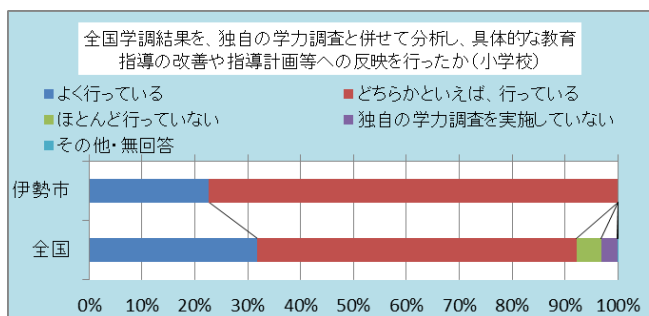
### (8) 全国学力・学習状況調査結果の活用について



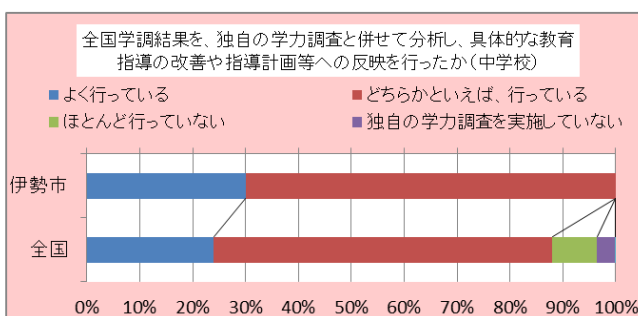
グラフ 37 (小学校)



グラフ 38 (中学校)



グラフ 39 (小学校)



グラフ 40 (中学校)

グラフ 37・38 は「全国学力・学習状況調査の結果を教育活動改善のために活用したか」を、グラフ 39・40 は「全国学力・学習状況調査の結果を独自の学力調査と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行ったか」を学校に対して聞いたものです。

両項目において小・中学校ともに全校が肯定的な回答をしており、全国学力・学習状況調査の結果を子どもたちの現状を把握し、改善のために活用していることがわかります。

今後も、学校の教育活動や学校運営の状況に関する情報を積極的に保護者や地域に提供することで、家庭、地域との連携を深め、子どもたちの確かな学力の育成のために活性化を図っていくことが大切です。

### 3 教科に関する調査の結果

#### (1) 各教科の正答の状況

教科に関する調査の平均正答率・正答数は次のとおりです。

令和5年度の教科に関する調査の概要

	小学校調査		中学校調査			
	国語	算数	国語	数学	英語	英語 話すこと
R5 全国 平均正答数	9.4/14	10.0/16	9.7/15	7.2/15	10.4/17	0.6/5
R5 三重県 平均正答数	9.4/14	9.9/16	9.6/15	7.3/15	10.1/17	公表無し
R5 全国 平均正答率(%)	67.2	62.5	69.7	51.0	45.6	12.4
R5 三重県 平均正答率(%)	66.9	61.8	68.7	51.3	45.0	公表無し
R5 伊勢市 平均正答率概要	全国と ほぼ同じ	全国と ほぼ同じ	全国と ほぼ同じ	全国と ほぼ同じ	全国と ほぼ同じ	公表無し

※国語、算数・数学、英語の平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）です。

※平均正答率概要については、全国と伊勢市の差異が±3%以内をほぼ同じと表しています。

※「令和5年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」において、「英語に関する調査の結果については、『聞くこと』、『読むこと』、『書くこと』の合計を集計する。また、『話すこと』に関する調査の結果については、当日実施校の結果から推定される全国値のみを公表することとし、都道府県別、指定都市別の公表は行わない。」とされています。

#### (2) 各教科の結果概要

※「平均正答数」は児童生徒の正答数の平均です。

※「平均正答率」は平均正答数を百分率で表示しています。

※概要の「各領域の平均正答率の状況」は、文部科学省から提供されたグラフであり、学習指導要領に示されたその教科における各領域の、伊勢市と全国（公立）の平均正答率を表したものです。

※「特徴的な結果であった設問とその出題の趣旨」に記載の記号の見方

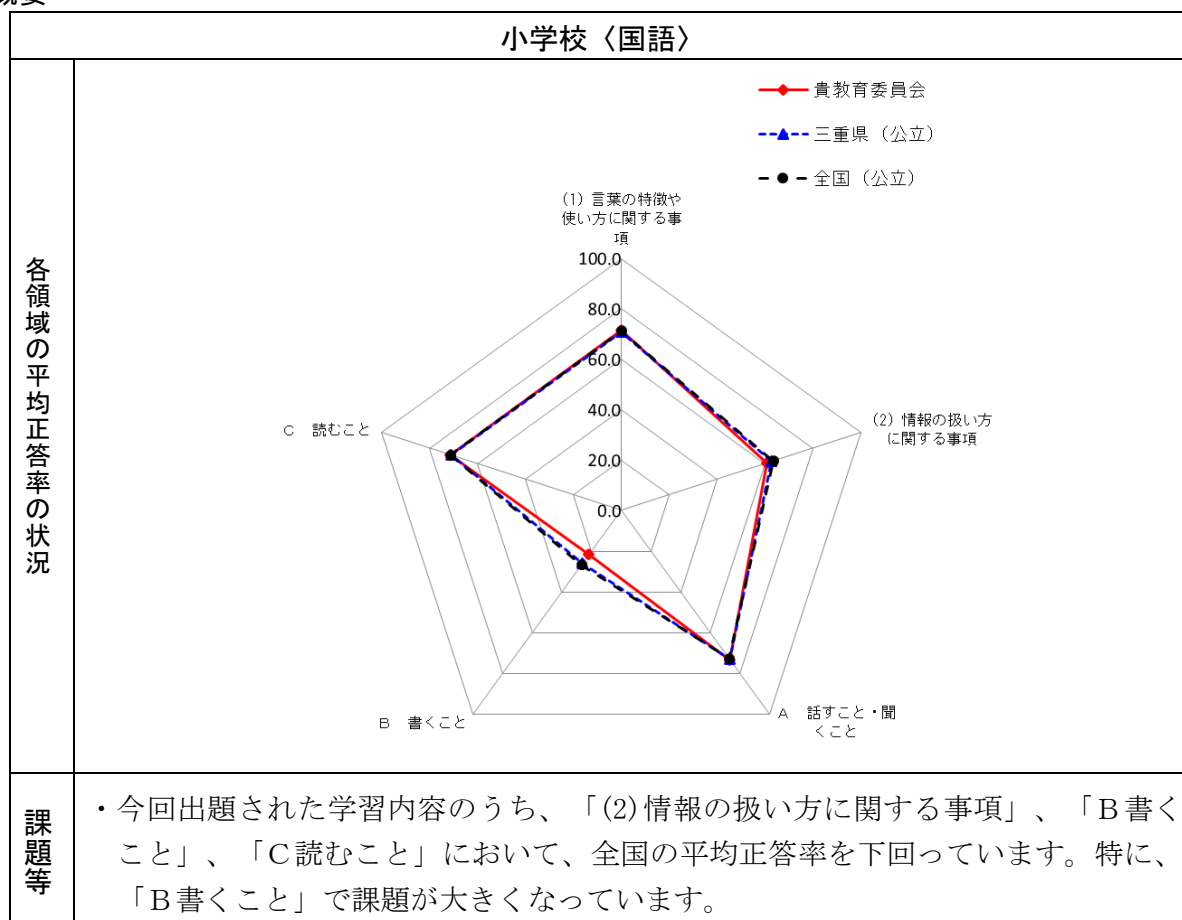
○：正答率が、全国平均よりも3ポイント程度以上高い設問のうち主な設問

▽：正答率が、全国平均よりも3ポイント程度以上低い設問のうち主な設問

※設問ごとの正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率です。

## 小学校〈国語〉

### ①概要



### ②特徴的な結果であった設問とその出題の趣旨

#### 知識及び技能

##### (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

1 三 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う

○ア いがい      ▽ウ きかん

##### (2) 情報の扱い方に関する事項

▽2 三 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる

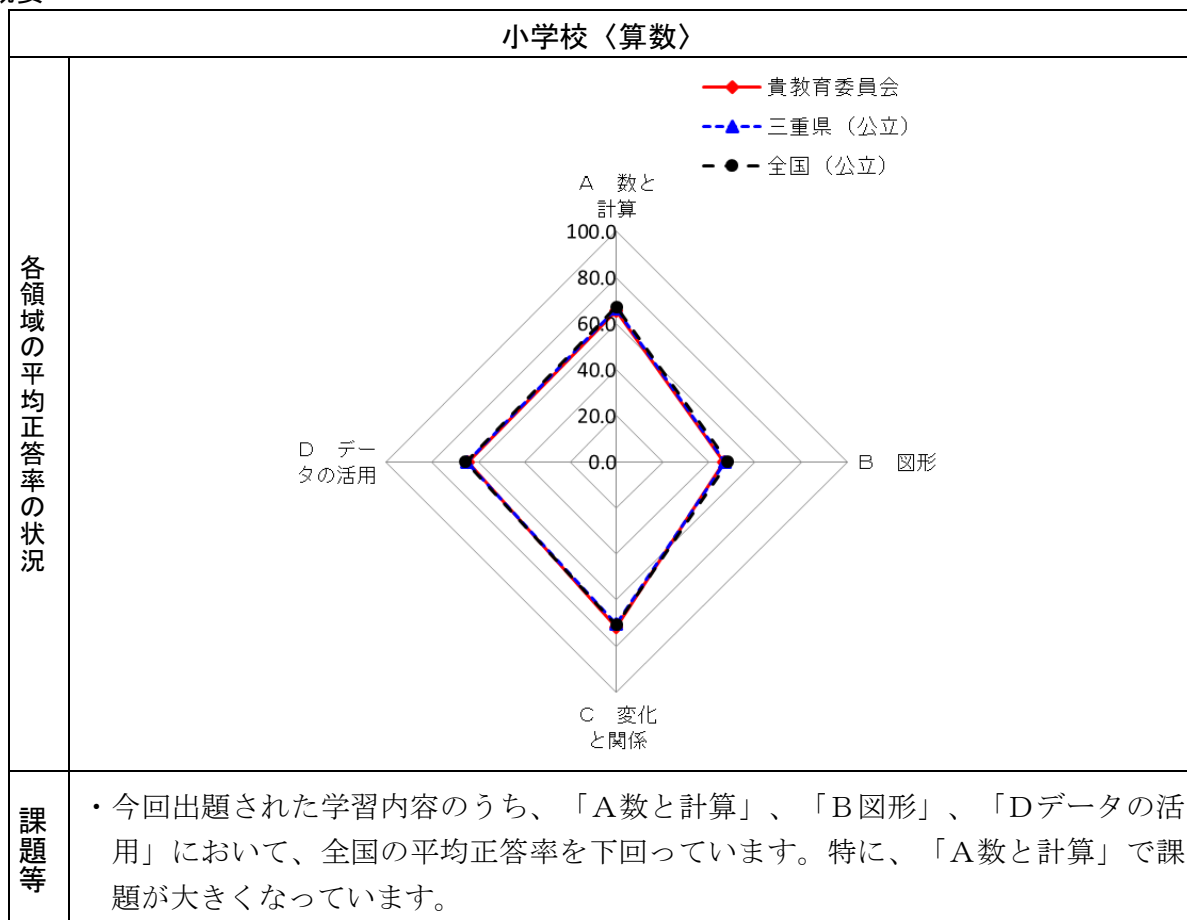
#### 思考力、判断力、表現力等

##### B：書くこと

▽1 二 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる

## 小学校〈算数〉

### ①概要



### ②特徴的な結果であった設問とその出題の趣旨

#### A 数と計算

- ▽3 (1) ( ) を用いた式や、加法と情報の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる
- ▽3 (4) 2位数÷1位数の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる

#### B 図形

- ▽2 (3) 正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる
- ▽2 (4) 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる

#### C 変化と関係

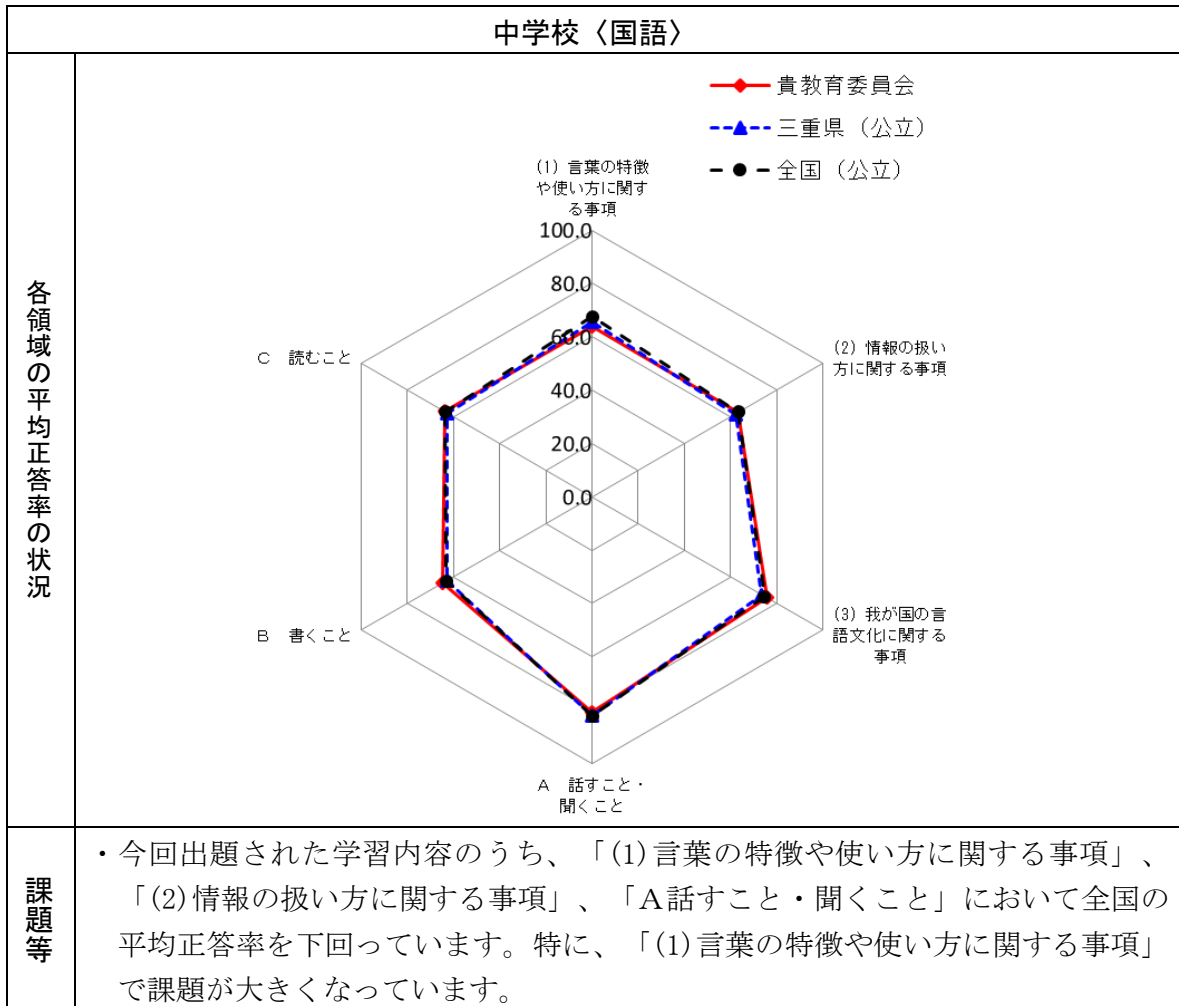
- 4 (1) 百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる

#### D データの活用

- ▽4 (3) 示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる

# 中学校〈国語〉

## ①概要



## ②特徴的な結果であった設問とその出題の趣旨

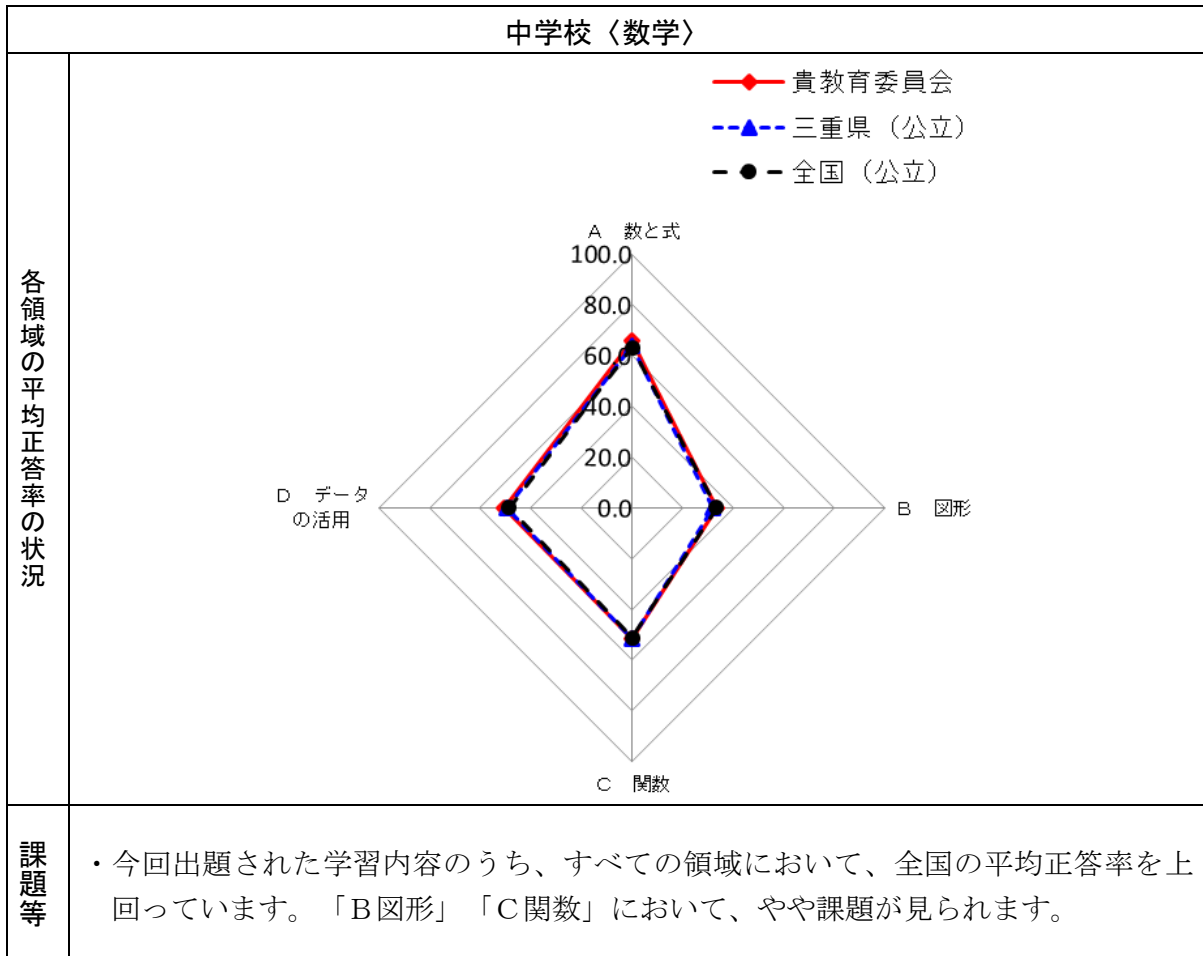
### 知識及び技能

#### (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

▽3二 文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる

## 中学校〈数学〉

### ①概要



### ②特徴的な結果であった設問とその出題の趣旨

#### A 数と式

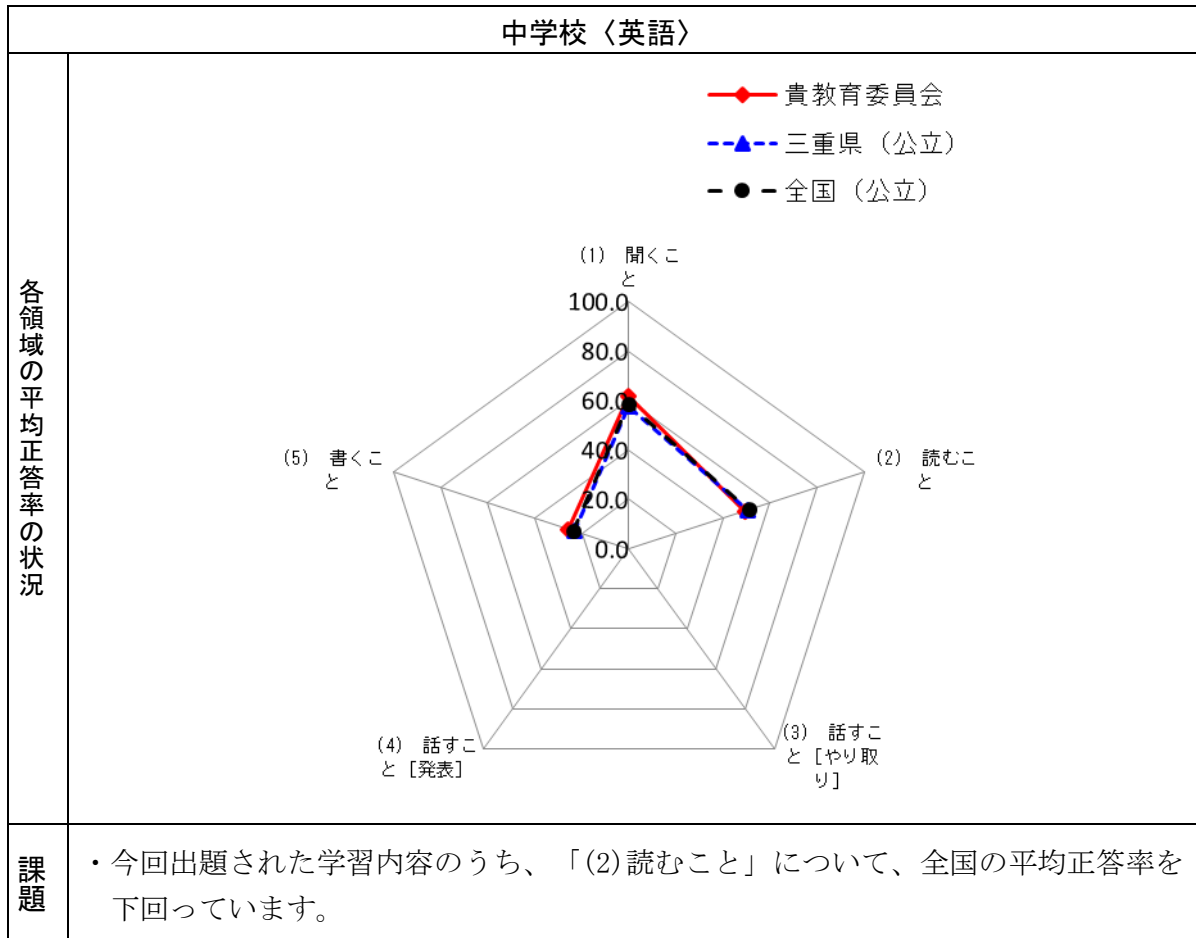
- 1 自然数の意味を理解しているかどうかをみる
- 2 数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる

#### D データの活用

- 7 (1) 四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる

## 中学校〈英語〉

### ①概要



### ②特徴的な結果であった設問とその出題の趣旨

#### (1) 聞くこと

- 1 (1)、(2) 情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる
- 3 日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる。

#### (2) 読むこと

- ▽ 8 (1) 社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる

#### (5) 書くこと

- 9 (1)① 未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる



## 4 課題が見られた設問の指導に当たってのポイント

### (1) 小学校国語

#### ① 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する

##### (対応設問 1 二)

図表やグラフなどを用いるのは、示すべきことが、図解したり、表形式やグラフ形式で示したりした方が分かりやすい場合である。観察や実験、調査の結果などの事実の記述は、このような図表やグラフを用いる方が自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できるものとなる。

本設問では、川村さんは、選んだカードを基に、グラフを示しながら学校の米作りの問題点とその解決方法について書こうとしている。グラフを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することが求められる。

学習指導に当たっては、伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフなどを用いるとよいかを児童が考えられるようにすることが大切である。そのためには、それぞれの図表やグラフの特徴や優れている点などについて、他教科等と関連して指導することも考えられる。また、推敲の際は、図表やグラフなどの用い方は適切か、図表やグラフを用いることで書く必要がなくなった文章はないか、あるいは、文章で説明を加えた方が分かりやすい部分はないか、といった観点で見直していくことが大切である。児童の学習の状況に応じて、教師が、図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することも考えられる。

なお、引用した図表やグラフの出典については必ず明記するとともに、引用部分が適切な量になるようにする必要がある。図表を用いる場合には、本文に「図 1 は、～」、「表 1 は、～」といった表現を用いて本文との関連を示すことを指導することも考えられる。

#### ② 同じ読み方をする漢字を注意して使う (対応設問 1 三(1)ウ)

漢字を書くことについては、当該学年の前の学年に担当されている漢字を書き、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにするとともに、当該学年に担当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うように指導することが重要である。

学習指導に当たっては、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くようにすることが大切である。第 1 学年及び第 2 学年では、文や文章の中で漢字を読むことや、文脈の中での意味と結び付けていくようにすることが大切である。第 3 学年及び第 4 学年は、漢字による熟語などの語句の使用が増えてくる時期であるため、漢字辞典を使って漢字の読みや意味などを自分で調べる活動を積極的に取り入れ、習慣として定着するようにすることが大切である。第 5 学年及び第 6 学年は、漢字による熟語などの語句の使用が一層増加する時期であるため、本設問にあるような「意外」、「以外」などの同音異義語に注意し、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くようにすることが大切である。

③情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う  
(対応設問2三)

情報と情報との関係付けの仕方として、例えば、複雑な事柄などを分解して捉えたり、多様な内容や別々の要素などをまとめたり、類似する点を基にして他のことを類推したり、一定のきまりを基に順序立てて系統化したりすることなどがある。

図などによる語句と語句との関係の表し方とは、複数の語句を丸や四角で囲んだり、語句と語句とを線でつないだりするなど、図示することによって情報を整理することである。図示などにより語句と語句との関係を表すことを通して、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりすることができることを理解し、そのよさを実感できるようにすることが大切である。

本設問では、運動の面から健康について考えてきた相田さんが、食事の面から健康について考えている友達の話聞いて、【資料3】に興味をもって読み、情報を整理している。相田さんが、自分にとって重要だと考えた言葉を整理していることと、運動と栄養素の働きとを関係付けていることを捉えることが求められる。学習指導に当たっては、目的に応じて必要だと判断した複数の語句を図示することによって整理できるようにすることが大切である。その際、児童が知っていたり、これまでの学習で使ったりしたことがある様々な情報の整理の仕方の中から、自分に合った方法を選ぶことができるように指導することが考えられる。必要に応じて、情報の整理の仕方について、一斉に指導を行うことも考えられる。また、〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の指導事項との関連を図り、指導の効果を高めることが考えられる。

<小学校国語授業アイデア例①> (設問1二に対応)

<p>「学校の米作りについて解説する文章を書こう」                  ～情報と情報との関係を捉えたり、グラフなどを用いて、                  自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりする～</p>	<p>〈実施対象学年〉                  第5・6学年</p>
<p>情報と情報との関係を捉えて整理し、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られました。そこで、本授業アイデア例では、令和5年度全国学力・学習状況調査【小学校】国語1に登場する川村さんの思考の流れに沿って、課題に応じた三つの場面を取り上げて、指導事例を紹介します。</p> <p>◆書き始める場面: 目的や意図に応じて、考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にする                  ◆情報を整理する場面: 情報と情報との関係を捉えて整理する                  ◆記述する場面: 図表やグラフを用いるなどして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する</p>	
<p>書き始める場面</p>	<p>目的や意図に応じて、考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にする</p>
<p>◇ 川村さんの学級では、経験を基に、自分の考えが伝わるように文章を書くという学習を行っています。川村さんは、困っていることを友達に相談しながら、学習を進めています。</p>	
<p>【目的の確認と内容の検討】</p>	
<p> 川村さん</p>	<p>5年生のときに、学校の田んぼで取り組んだ米作りについて書こうかな。米作りに興味のある人に役立つ文章にするためには、どんなことを書こうかな。</p>
<p> 中町さん</p>	<p>米作りの問題点を書く と役立ちそう。</p>
<p> 向井さん</p>	<p>問題点だけでなく、解決方法も 書くといいね。</p>
<p> 水野さん</p>	<p>昨年、米作りをした ときに記録したカード から考えることも できそうだね。</p>
<p> 川村さん</p>	<p>昨年取り組んだときは、雑草がどんどん増えたけれど、解決することができた。記録してきたカードを基に、問題点と解決方法を書こうかな。どのように書いていけばよいのだろう。</p>
<p> 中町さん</p>	<p>雑草がどんどん増えて大変だったけれど、 原因を調べて解決できたよね。そのことが、 読む人にはっきり伝わるといいね。</p>
<p> 向井さん</p>	<p>読む人は、なぜ、雑草が どんどん増えたのか、 知りたいと思うよ。</p>
<p> 川村さん</p>	<p>なるほど。なぜ雑草がどんどん増えたのか、そして、どんなことを調べて、どう解決したかを読む人にとって分かりやすいように書いていこう。</p>
<p> 教師</p>	<p>川村さんが書くのは、調査などを通して明らかになったことを分かりやすく伝える文章ですね。書く目的と内容が明確になったので、米作りについて記録してきたカードを見返し、目的に沿って整理しましょう。</p>
<p><b>ポイント</b></p>	
<p>文章を書き始める場面では、書く目的や内容を検討する時間を設定し、伝える相手を明確にしたり、経験を基に材料を集めたり、何をどのように書くかを考えたりできるように指導することが大切です。その際、〔知識及び技能〕の(1)カの「文章の種類とその特徴」の指導事項を関連付けて指導することも考えられます。学習の見通しをもつことで、文章全体の構成や展開を考えたり、書き表し方を工夫したりする主体的な学びにもつながります。</p>	

◇ 川村さんは、米作りをする人の役に立つために、学校の米作りの問題点と解決方法について書くことにし、情報を整理することにしました。



川村さん

米作りのときに記録していたカードを振り返って、「雑草」を視点に、整理してみよう。

【川村さんが整理している様子①】

<p>5月23日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・田植え体験をした。まっすぐになえを植えるのは、とても難しかった。</li> <li>・たくさんのお米がしゅうかくできるように育てていきたい。</li> </ul>	<p>7月5日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・田んぼの水がかわいていたので、水を入れた。</li> <li>・本で調べると、水の管理が大切だと書いてあったので気をつけたい。</li> </ul>	<p>7月20日</p> <p>〔農家の石山さんのお話〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雑草に栄養をとられると、米のしゅうかくが減る。</li> <li>・雑草が多いと、いねが病気になることがある。</li> <li>・農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。</li> </ul>
<p>6月24日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思ったより学校の田んぼに雑草が生えてきた。</li> <li>・このまま雑草が増えたら米のしゅうかくにえいきょうするのではないかと心配だ。</li> </ul>	<p>雑草の量の調査(調査カード)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月1日 学校の田んぼ・・・バケツ2個分 農家の田んぼ・・・バケツ1個分</li> <li>・7月8日 学校の田んぼ・・・バケツ3個分 農家の田んぼ・・・バケツ1個分</li> <li>・7月15日 学校の田んぼ・・・バケツ4個分 農家の田んぼ・・・バケツ1個分</li> </ul>	<p>7月21日</p> <p>〔学校でできる解決方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雑草取りの回数を増やす。</li> <li>・雑草取りの人数を増やす。</li> </ul>
<p>6月30日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雑草取りをしているが、農家の田んぼには見られないほど、雑草の量が増えてきた。どれくらい増えているのか雑草の量を調べる。</li> <li>・調査方法 週に1回、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量をくらべる。</li> <li>・調査きかん 7月1日～15日</li> </ul>	<p>7月19日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の田んぼでは、雑草の量に対して雑草取りが追いついていないと考えられる。</li> <li>・雑草の量と米のしゅうかくの関係について、農家の石山さんの話を聞きに行く。</li> </ul>	<p>8月10日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いねのほが出そろい、ほ先に黄色いものがたくさん付いていた。</li> <li>・黄色いものの正体について回かんなどで調べることにする。</li> </ul>
		<p>9月29日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いねかり体験をした。石山さんがいねのかり方を教えてくれた。</li> <li>・たくさんお米をしゅうかくできてうれしかった。しゅうかく祭でおにぎりにして食べるのが楽しみだ。</li> </ul>

どのカードが使えるかな。まず、「雑草」というキーワードに線を引いて関係があるカードだけを選んでみよう。



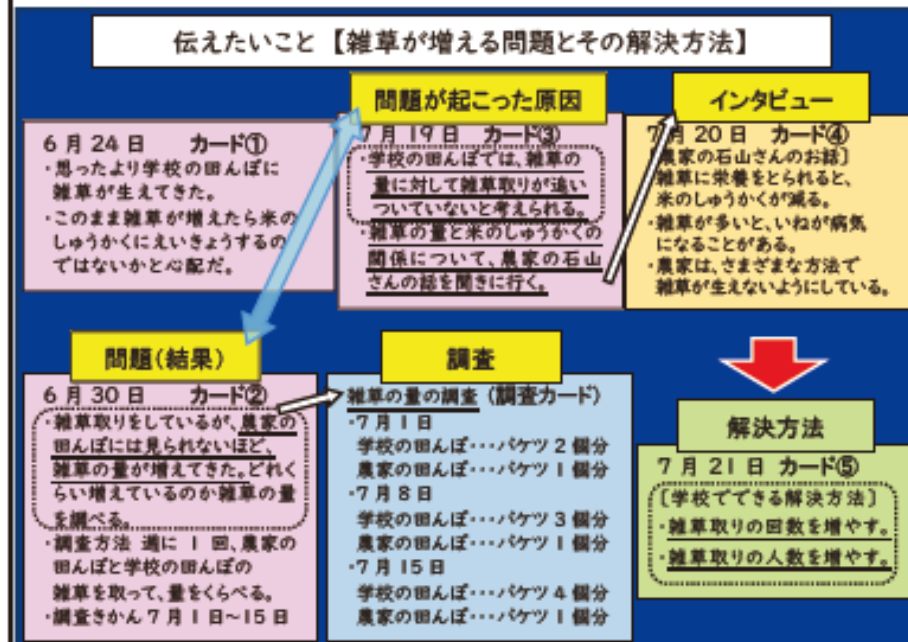
9月29日のカードは、「いねかり」のことだから、取り上げる必要はないな。



教師

川村さんは、キーワードに印を付けることで、必要なカードと不要なカードを分類することができましたね。すべてのカードを使おうとするのではなく、目的に応じて必要な情報を選び出すことが大切です。みなさんも、情報を整理することができましたね。では、選んだカードを関係付けて、伝えたいことを明確にしていきましょう。

## 【川村さんが整理している様子②】

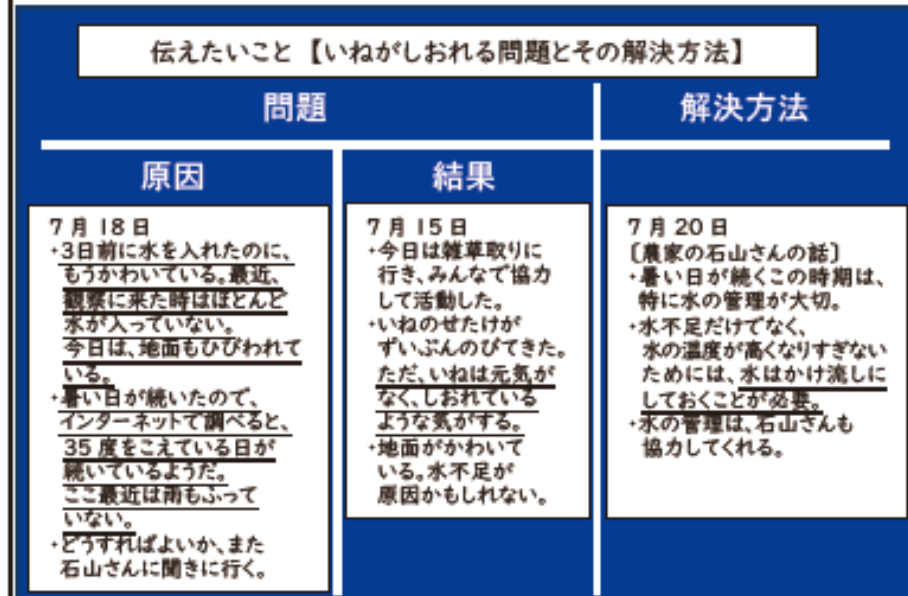


選んだカードを矢印で結び、それぞれのカードを関係付けてみました。



カード②とカード③は、雑草が増えてしまった結果と原因の関係にあるな。矢印で結んでおこう。

## 【中町さんが整理している様子】



日付の順番ではなく、原因と結果に着目して、カードを並べ替えてみました。



この三つのカードを中心に書けば、伝えたいことが明確になるかな。



川村さんは、カードを矢印でつないだり、情報と情報との関係を見いだして、書き込みをしたりして、整理をしていますね。

中町さんは、情報と情報との関係を表した表を用いて、カードを動かしながら、整理をしていますね。

みなさんも、二人のように、情報と情報との関係を捉えて整理し、伝えたいことを明確にしたり、文章全体の構成を考えたりすることが大切です。

## ポイント

情報を整理する場面では、必要な情報に印を付けたり、情報と情報を矢印でつないだり、表を用いてまとめたりするなどして、情報と情報との関係を視覚的に捉えることができるようにすると効果的です。また、情報を整理する際には、ICT機器を活用すると、編集したり視覚的に捉えたりしやすくなるので、情報を整理しやすくなります。

記述する場面 図表やグラフを用いるなどして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する

◇ 川村さんは、整理した情報を基にして自分の考えが伝わるように文章を書いています。



情報が整理できたから、次は、問題点と解決方法に着目して、カードを並べて、文章を書いてみよう。

川村さん

問題点		解決方法
<p>6月30日 カード②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雑草取りをしているが、農家の田んぼには見られないほど、雑草の量が増えてきた。どれくらい増えているのか雑草の量を調べる。</li> <li>・調査方法 週に1回、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量をくらべる。</li> <li>・調査さかん 7月1日～15日</li> </ul>	<p>雑草の量の調査(調査カード)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月1日 学校の田んぼ…バケツ2個分 農家の田んぼ…バケツ1個分</li> <li>・7月8日 学校の田んぼ…バケツ3個分 農家の田んぼ…バケツ1個分</li> <li>・7月15日 学校の田んぼ…バケツ4個分 農家の田んぼ…バケツ1個分</li> </ul>	<p>7月20日 カード④</p> <p>【農家の石山さんのお話】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雑草に栄養をとられると、米のしゅうかくが減る。</li> <li>・雑草が多いと、いねが病気になることがある。</li> <li>・農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。</li> </ul>
		<p>7月21日 カード⑤</p> <p>【学校でできる解決方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雑草取りの回数を増やす。</li> <li>・雑草取りの人数を増やす。</li> </ul>



「雑草取り」のことは、どのように雑草取りをしたのかを、詳しく書いた方がよさそうだな。

「調査結果から～が分かりました」と、分かったことを書くことはできそうだな。

問題点に対してどう考えたのか、どう解決しようとしたのかを書くときには、「そこで」を使うと分かりやすいな。

【川村さんの文章 下書き①】

<p>(略)6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、雑草の量が増えてきました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量をくらべてみました。きかんは、7月1日から15日までです。調査結果から、学校の田んぼでは、雑草の量に対して、雑草取りが追いついていないことが分かりました。そこで、雑草取りの回数と人数を増やすことにしました。</p>	<p>問題点</p> <p>カード②</p> <p>調査結果(調査カード)</p> <p>解決方法</p> <p>カード⑤</p>
--	---



問題点と解決方法を書いたけれど、問題点について、もっと明確に書きたいな。どのように書いたらいいかな。



調査カードに書いてある調査結果も詳しく書くといいと思うよ。その調査結果をみて、石山さんに聞きに行こうと思ったんだね。専門家に聞くことで、問題点が明確になったね。



そうだね。カード④の石山さんのお話も入れた方がいいね。雑草が増えるとどんな問題があるのかということを書くと、問題点としての説得力が増すね。



ありがとう。調査結果を書いたり、専門家にインタビューをしたことを書いたりするなど、複数の情報を基にして書くと、考えがより明確に伝わるね。もう一度、書いてみるね。

【川村さんの文章 下書き②】

<p>(略)6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、雑草の量が増えてきました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量をくらべてみました。きかんは、7月1日から15日までです。7月1日は、学校の田んぼはバケツ2個分、農家の田んぼはバケツ1個分でした。7月8日は、学校の田んぼはバケツ3個分、農家の田んぼはバケツ1個分でした。7月15日は、学校の田んぼはバケツ4個分、農家の田んぼはバケツ1個分でした。学校の田んぼでは雑草が増え続けていたため、雑草に栄養をとられてしゅうかくが減ってしまうかもしれないという問題点がありました。そこで、雑草取りの回数と人数を増やすことにしました。</p>	<p>問題点</p> <p>カード②</p> <p>調査結果(調査カード)</p> <p>カード④</p> <p>石山さんのお話</p> <p>解決方法</p> <p>カード⑤</p>
--	--



問題点と解決方法に着目して書いてみたけど、読みづらい気がするなあ。どうしたらいいかな。



川村さんは、読む人のことを考えて、悩んでいますね。自分の考えをより分かりやすく伝えるためには、書き表し方を工夫することが大切です。そのことを考えるための資料を用意しましたので、学級全体で考えてみましょう。

教師

【教師が提示した資料】

A : グラフが入っていない資料

例 学校で起こるけがの問題点とその解決方法

けがの治りょうのために、保健室にきた人数を調査してみました。

7月3日(月)は、1年生が5人、6年生が5人でした。7月5日(水)は、1年生が8人、6年生は5人でした。7月7日(金)は、1年生が11人、6年生は6人でした。6年生のけがをした人数は、ほぼ変わらないのに対して、1年生のけがをした人数が増えていることが分かります。1年生は週末につかれがやす、注意力が低下するかもしれないという問題点が見えてきました。そこで、週末にかけて、校庭と校舎内の見守りの人数を増やすことにしました。

B : グラフが入っている資料

例 学校で起こるけがの問題点とその解決方法

けがの治りょうのために、保健室にきた人数を調査してみました。

右のグラフを見ると、6年生のけがをした人数は、ほぼ変わらないのに対して、1年生のけがをした人数が増えていることが分かります。1年生は週末につかれがやす、注意力が低下するかもしれないという問題点が見えてきました。そこで、週末にかけて、校庭と校舎内の見守りの人数を増やすことにしました。



中町さん

グラフを入れると、見て分かることは書かなくてよから、文字が少なくて、読みやすいですね。



Bの方が、人数の増減の比較がしやすく、1年生のけがが増えているという問題点が明確になりました。



Bの「右のグラフを見ると」という言い方も、とても大切です。



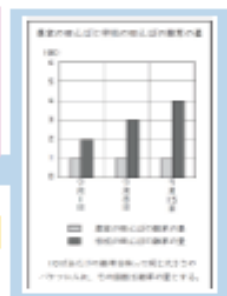
よく分かりました。図表やグラフなどを用いると、自分の考えをより分かりやすく伝えることができますね。調査結果の部分について、グラフを用いて、書き直してみようと思います。

【川村さんの文章 完成】

(略)6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、意外に雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量を比べてみました。期間は、7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。グラフから分かるように学校の田んぼでは雑草が増え続けていたため、雑草に栄養をとられてしゅうかくが減ってしまうかもしれないという問題点がありました。

そこで、雑草取りの回数と人数を増やすことにしました。



問題点

カード②

調査結果  
(調査カード)

カード④  
石山さんの話

解決方法  
カード⑤

ポイント

- 文章を記述する場面では、友達と助言し合いながら、児童自身が自分の文章を何度も見直したり、書き直したりできるように指導することが大切です。
- 児童の学習の状況に応じて、教師が、図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することが効果的です。特に、本授業アイディア例のように、複数の文章を比べることで、図表やグラフなどを用いると、自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できるものになることを実感できるようにすることが効果的です。

＜小学校国語授業アイデア例②＞（設問2全体に対応）

「健康に過ごすために、複数の本や資料を読み、自分ができそうなことをまとめよう」 ～目的に応じて必要な情報を見付けたり、情報を関係付けて整理したりして、 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる～	〈実施対象学年〉 第5・6学年
---	--------------------

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることに課題が見られました。そこで、本授業アイデア例では、令和5年度全国学力・学習状況調査【小学校】国語<sup>2</sup>で取り上げた【資料1】から【資料3】までを活用した指導事例を学習の流れに沿って紹介します。

◇ 教師は、年間指導計画等を基に、本単元で重点的に取り上げる指導事項を明確にし、児童の実態を踏まえながら、学習の流れを想定します。



教師

この単元では、〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の「考えの形成」に関する指導事項を重点的に取り上げ、定着を図ることにしよう。

児童一人一人が、文章を読んで理解したことについて、既存の知識などと結び付けて自分の考えをもてるようにするために、課題は身近な「健康」にしよう。この単元で身に付けさせたい力は自分の考えを形成することだから、「健康について、複数の本や資料を読んで、考えたことをまとめる」という言語活動がふさわしいな。そうすると、単元の流れは次のようになりそうだな。

時間	学習の流れ	指導事項	学習の形態
①	・学習の見通しをもつ。		学級全体で
② ③	・どのような面から健康について考えたいか決め、 資料を探す。 ・気になるところに付箋や印を付けて、自分が知りたいことを詳しく調べる。	精査・解釈 (中学年)	一人で グループで
④ ⑤	・情報の整理の仕方について交流する。 ・複数の資料を読んで分かったことを交流する。	精査・解釈 (高学年) 情報の整理	一人で グループで
⑥	・資料を読んで分かったことに基づいて、自分の考えをまとめる。	◎考えの形成	一人で
⑦	・まとめた文章を友達と読み合い、単元全体を振り返る。	共有	グループで 学級全体で



学習の流れは固まったけれど、児童の中には、主に⑤の「複数の資料を読んで分かったことを交流する場面」でつまずく子(岡本さん)や⑥の「資料を読んで分かったことに基づいて、自分の考えをまとめる場面」でつまずく子(石崎さん)がいそうだな。こうした児童に合う手立てを考えておく必要があるな。

ポイント

- 児童一人一人の読む目的などによって、学習の進め方が異なることが予想されます。そのため、学級全体で共通して指導することと、児童一人一人の状況に応じて個別に指導することをあらかじめ想定しておくことが大切です。
- 重点とする指導事項は「考えの形成」ですが、児童の実態によっては、〔思考力、判断力、表現力等〕の「構造と内容の把握」や「精査・解釈」、〔知識及び技能〕の「情報の整理」に関する指導事項の定着も図ることができるよう、手立てを講じておくことが大切です。



- ◇ ここでは、目的に応じて必要な情報を見付けたり、複数の情報を関係付けて整理したりして、文章を読んで分かったことに基づいて、自分の考えをまとめることができるように、「健康に過ごすために、複数の本や資料を読み、自分ができそうなことをまとめる」という学級全体の課題を設定します。
- ◇ 設定した課題を基に、児童が見通しをもつことができるようにします。一人で調べたり考えたりする場面、グループや学級全体で話し合う場面を設定することで、児童が自分の興味・関心を踏まえて再考したり、必要な情報を再度集めたりすることができるようにします。

学級全体の課題

健康に過ごすために、複数の本や資料を読み、自分ができそうなことをまとめよう。

○ 目的に応じて必要な情報を見つけよう

○ 情報を関係付けて整理しよう

○ 文章を読んで分かったことにもとづいて、自分の考えをまとめよう

**学習の計画**

- 1 学習の見通しをもつ(今日)
- 2 3 さがした資料の中から気になる資料を選び、自分が知りたいことを調べる
- 4 資料から分かったことを整理する
- 5 資料を読んで分かったことを友達と交流する
- 6 自分の考えをまとめる
- 7 友達とまとめたことを交流し、学習をふり返る

- ◇ 相田さんたちは、学級全体の課題に基づいて、自分がどのような面から健康について考えるのかを決め、学習の見通しをもちます。



教師

健康に過ごすために、自分はどのような面から考えたいですか。



相田さん

運動の面から考えてみたいです。運動すると健康にどのようないいことがあるのか知りたいからです。図書館に行って、運動について書いてある資料を探してみようと思います。



岡本さん

家庭科で学習した食事の面から考えてみようと思っています。栄養士さんに相談して、よい資料がないか聞いてみます。



石崎さん

どのような面から考えればいいのか、まだ決められていません。健康に関わる資料を探しながら考えたいです。

### ポイント

岡本さんのように、既存の知識と結び付けて考えようとする児童や、石崎さんのように、どのような面から考えるか決めることができない児童がいることが想定されます。特に、石崎さんのような児童には、課題について改めて考え、読む目的を意識できるように指導すると効果的です。その際、課題と関連付けて自分の生活を振り返るよう促したり、養護教諭などにインタビューする機会を設けたりすることが考えられます。児童の主体性を大切にし、課題についてどのような面から考えるかを、自分で決めることができるようにすることは、自分の考えをもち、まとめようとする意欲にもつながります。

④/7 情報の整理の仕方について交流する

◇ 相田さんたちは、自分の興味・関心などに応じて、運動の面や食事の面など、一人一人違う面から本や資料などを探して読み、分かったことを整理しています。



教師

友達がどのような面から読んでいるのか、資料を持ち寄って交流してみましょう。紹介し合う際に、友達がどのように情報を整理しながら読んでいるかについても交流できると新しい発見があるかもしれませんね。

相田さん



岡本さん



石崎さん

運動の種類について情報を集めているから、それに関係する大事な言葉を四角で囲んで、線で結んだよ。そうしたら、「運動の種類」が四つあることが分かったよ。

相田さんが書きこんだ【資料2】

運動で健康な体をつくろう！

どんな運動をするとういいの？  
運動をする際、自分に合った運動を選んで行うことが大切です。

主な運動の種類には、下のように軽いジョギングなどの持久力を高める運動や、腹筋運動などの筋力を高める運動があります。そのほかにも、体の柔らかさを高める運動や、たくみな動きを高める運動などがあります。



岡本さんの資料は、「運動」の面からも読めそうだな。パンフレットを貸してもらおう。

食事の面から読んでいるよ。大事な言葉を抜き出して、メモに整理したら、バランスよく栄養をとることが大切だと分かったよ。

【資料3】を読んで  
岡本さんが書いたメモ

- ① 「栄養素の働き」を読んで  
↓ 同じもの、好きなものばかり食べる  
↓ 栄養がかたよる  
↓ つかれやすくなる  
↓ いらいらする
- ② 栄養素の主な働き  
・ 米やパン || エネルギーのもと  
・ 肉やたまご || けがが治りやすくなる  
・ 野菜やくだもの || 病気にかけにくくなる



メモの方が整理しやすかったな。でも、相田さんや石崎さんのように図で整理する方法もあるんだな。石崎さんのように色分けするのもいいアイデアだね。

運動が大切だと分かるところに、線を引いたんだけど、線が多くてどこが大事なのか分からなくなってしまったよ。

そうか、相田さんみたいに、線を引いた文の中から更に大事な言葉を見つけて整理してみるといいんだね。「運動」を赤で囲んでみるね。



でも、このままでは、どの語句が大事か分からないなあ。



どのように運動するとよいか書かれているところを青で囲んでみるといいよ。

石崎さんが書きこんだ【資料1】

運動は、体力の向上につながります。そのため、子供からお年寄りまで適度に運動をすることが大切だとされています。

———— 中略 ————

生活の中に自分が好きな運動を取り入れれば、続けて取り組むことができます。その際は、目的に応じた運動を選ぶとともに、健康状態や体力に合わせて自分のペースで行うことが大切です。



似ているような意味で繰り返し出てくる言葉は大事なんだな。大事な言葉をはっきりさせたり、言葉と言葉の関係を整理したりするといいんだな。次の資料でもやってみよう。岡本さんみたいに大事な言葉を抜き出してメモにまとめる方法もやってみよう。

ポイント

児童が自分の目的に合った情報の整理の仕方を選ぶことができるようにすることが大切です。

また、複数の情報を整理することで、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりすることができることを理解し、そのよさを実感できるように指導することが大切です。

◇ 相田さんたちは、複数の本や資料を読んで分かったことを交流しています。



教師

前は自分の資料を読んだり、友達と交流して、友達の資料を読んだりしましたね。今日の学習について、それぞれ取り組むことを確認しましょう。



相田さん

前回石崎さんや岡本さんに見せてもらった資料にも運動について書いてあったので、もう一度、自分の資料と関係付けて読んでみようと思います。



岡本さん

【資料3】に知りたいことが書いてあったから、もう書けそうです。病気にならないために、好ききらいをせず、バランスよく食事をすることを書こうと思います。



石崎さん

【資料1】から、「生活の中に自分が好きな運動を取り入れれば、続けて取り組むことができる」と分かりました。他の資料には、同じ言葉が出てこないで、関連する情報はないと思います。

自ら他の資料にも興味を広げて読めそうだな。しばらく、見守ろう。

一つの資料で完結してしまいそう。他の資料にも興味を広げられるように、友達とつなげよう。

複数の資料を集められたけれど、【資料1】と【資料2】を関係付けて読むことが難しいみたいだ。一緒に資料を読んで、個別に指導しよう。



岡本さんは、「病気にならない体づくり」について知るために読んでいるそうです。誰か関係しそうな資料を持っている人はいませんか？

【資料2】には食事のことは書いていないけれど、「病気」という言葉があるよ。岡本さんの知りたい情報があるかもしれないよ。



そうか、病気にならないために、食事以外の面からも考えてみるといいのか。相田さん、資料を貸してくれる？

岡本さんは、相田さんから資料を借りて読み始めたので、しばらく様子を見よう。その間に石崎さんが資料を関係付けて読むのを支援しよう。



石崎さん

石崎さん、一緒に資料を読んでみよう。【資料1】に「自分の好きな運動」とあるけど、石崎さんにとっては【資料2】のどの運動に当たるかな？



石崎さん

【資料2】の縄跳びです。



教師

縄跳びだと続けられそうなんだね。では、【資料1】と【資料2】に、似ている意味の言葉はあるかな？



石崎さん

【資料1】の「生活の中に」と、【資料2】の「日常生活の中に」は同じような意味だと思います。



教師

そうだね。そうしたら、生活の中に取り入れる方法が【資料2】に書かれているのかな？

### ポイント

教師は、児童一人一人の学習の状況を把握し、その状況に応じて適切に指導をすることが大切です。例えば、必要な資料を持っている他の児童と資料を読み合うように促したり、着目するとよい言葉を示して児童と共に資料を読んだりすることなどの指導が考えられます。



相田さん

「休みの時間の外遊び」などがそうだと思います。【資料1】だけだと分からなかったことが、【資料2】とあわせて読むことで詳しく分かりました。相田さんや岡本さんの考えも聞いてみます。

◇ 相田さんたちは、本や資料などを読んで分かったことや、友達と交流して考えたことを基にして、健康に過ごすために自分ができそうなことをまとめています。



教師

今日は、自分が選んだいくつかの資料を読んで分かったことを基に、これから自分ができそうなことを考えてまとめます。困った時は、先生に相談してください。



相田さん

【資料1】と【資料2】、【資料3】から、健康に過ごすためには、自分に合った運動、バランスのよい食事、運動と食事が両方とも大事だということが分かったとまとめよう。

相田さんは、三つの資料から運動と食事の二つの面で大切なことが分かったのですね。あとは、自分にできそうなことを決められるといいね。



相田さん

走るのが好きだから、毎日、目標を決めてジョギングを続けようと思います。それから、苦手な野菜もあるから、少しずつ食べられるようにしたいです。



岡本さん

【資料2】と【資料3】を使おう。自分には、好きなものばかり食べてしまうところがあるなあ。このままだと、疲れやすくなるから、バランスよく食べるようにするとまとめよう。

岡本さんは、自分の苦手なことに着目して考えていますね。資料から分かったこととつながりをもたせると、更に考えを深められそうですね。栄養素の働きをもう一度読んでみるとよさそうですね。



岡本さん

二つの資料には、病気の予防や運動のことが共通して書いてありました。自分にできそうなことをもう少し考えてみます。



石崎さん

【資料1】と【資料2】を使おう。日常生活の中で自分が好きな運動を自分のペースで取り組むとよいというのは分かるのだけど…。

先生。この後、どのようにまとめたらいいか分からなくて困っています。

石崎さんは、資料から分かったことがまとめられていますね。次は、分かったことを基に自分ができそうなことを考えよう。資料にはたくさんの情報があつたけれど、どうして「自分のペース」という言葉を四角で囲んだの？



石崎さん

続けることが苦手だけど自分のペースならできそうかなと思ったからです。



石崎さん

なるほど。石崎さんだったら「自分のペース」で何ができそうかな。

自分だったら、週2、3回くらい好きな縄跳びを続けられそうです。しかも、休み時間にできそうです。



「自分だったら」という考え方がいいね。分かったことの後にそれを加えるようにして、まとめてみよう。「だから」、「～ので」などの言葉を使うと、資料から分かったことと、資料を基に考えたことをつなぐことができるね。

### ポイント

- 文章を読んで理解したことと既有的知識や体験などと結び付けて考えていることを認め、価値付けることが大切です。
- 理解したことと既有的知識や体験などと結び付けて考えることが難しい児童には、着目した語句を確かめたり、その語句に着目した理由を問いかけてたりして自分の考えを表現できるように指導すると効果的です。
- 考えをまとめることが難しい児童には、「だから」、「～ので」など情報と情報との関係を表す語句や「思う」、「考える」のように思考そのものに関わる語句を例示するなど、〔知識及び技能〕の(1)「言葉の特徴や使い方に関する事項」と関連させて、考えをまとめることができるように指導すると効果的です。

(2) 小学校算数

① 目的の図形をつくるための操作の見通しを立てることができるようにする(対応設問2(3))

目的の図形をつくるために、どのような操作をすればよいか、図形の意味や性質を基に、見通しを立てることができるようにすることが重要である。

指導に当たっては、例えば、本設問のように、実際に正三角形や頂角の大きさが  $120^\circ$  の二等辺三角形をつくる活動が考えられる。その際、次のページの図のように、テープを折ってAの角の大きさを  $20^\circ$  などにして切ってきた直角三角形を切り開くと、頂角の大きさがそれぞれ何度になるのかを考えることができるようにすることが大切である。その上で、テープを切って開いてできた二等辺三角形の頂角の大きさはAの角の大きさの2倍になるのではないかとことに気づき、正三角形をつくるためには、頂角の大きさを  $60^\circ$  の半分の  $30^\circ$  にすればよいという見通しを立てることができるようにすることが大切である。

切って開いて、二等辺三角形や正三角形をつくろう。

開いたときのAの角の大きさをⒶとします。Ⓐの角の大きさを  $20^\circ$  にしたとき、Ⓑの角の大きさは何度になるでしょうか。

Ⓑの角の大きさは、Ⓐの角の大きさの2倍になっていますね。

だから、Ⓑの角の大きさは  $40^\circ$  になりますね。

正三角形をつくるためにⒷの角の大きさを  $60^\circ$  にするには、Ⓐの角の大きさを何度にすればよいでしょうか。

開いたときに2倍になるので、Ⓐの角の大きさは、Ⓑの角の大きさの半分になるはずですよ。

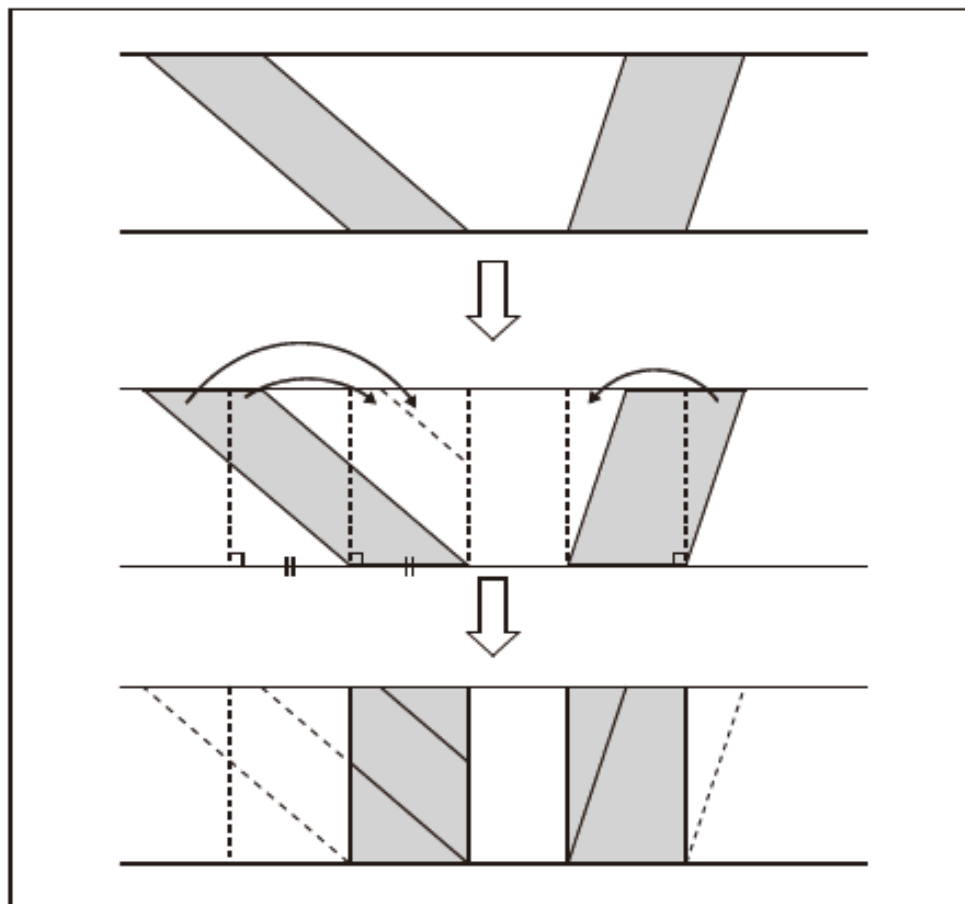
だから、Ⓐの角の大きさは、Ⓑの角の大きさの半分の  $30^\circ$  にすればよいですね。

## ②底辺と高さの関係に着目し、図形の面積の求め方から面積の大小を判断できるようにする

### (対応設問2(4))

三角形の面積を求めるために必要な底辺と高さの関係に着目し、三角形の底辺や高さや面積の関係を基に面積の大小を判断できるようにすることが重要である。

指導に当たっては、例えば、平行な直線にはさまれた底辺が等しい、二つの平行四辺形や、二つの三角形の面積を比べる活動が考えられる。その際、下の図のように、等積変形で平行四辺形を長方形に帰着させたとき、長方形の縦と横が、元の平行四辺形の底辺と高さに対応することを理解できるようにすることが大切である。



また、次のページの図のように、面積が等しく、形が異なる三つの三角形の面積について、実際に計算で面積を求めることで、底辺と高さがそれぞれ等しければ、三つの三角形の面積は等しくなることを理解できるようにすることも大切である。さらに、底辺と高さの具体的な長さが分からない場合でも、底辺と高さがそれぞれ等しければ、三つの三角形の面積は等しくなるということを、三角形の面積の公式から判断できるようにすることも大切である。


6 cm


4 cm


4 cm


4 cm

$4 \times 6 \div 2 = 12$        $4 \times 6 \div 2 = 12$        $4 \times 6 \div 2 = 12$

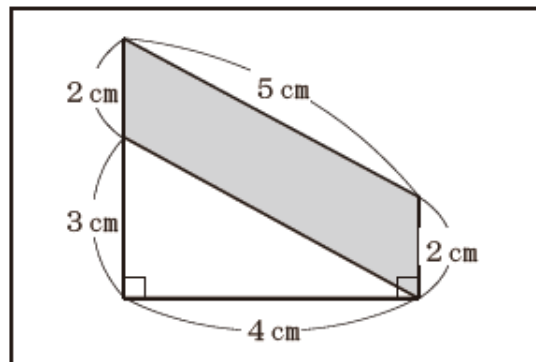

 三角形の形は違っても、底辺と高さがそれぞれ等しければ、面積は等しくなりますね。


 底辺はぴったり重なっているのです、同じ長さですね。


 平行な直線にはさまれた三角形は、高さが等しくなりますね。


 底辺と高さが何cmか分かりませんが、それぞれ等しいので、面積は全て等しくなりますね。

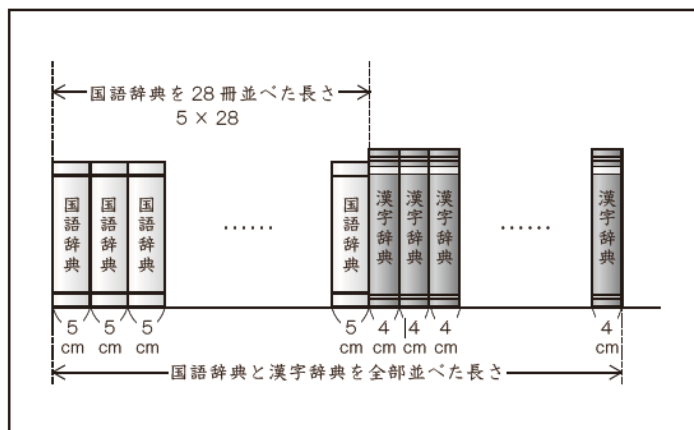
さらに、図形の面積を求めるためにどの部分の長さが必要であるかを判断する活動も考えられる。例えば、下のような、多くの辺の長さが示されている場面において、平行四辺形の面積を求めようとするとき、必要な情報を自ら選び出すことで、公式の理解を深めることができるようにすることが大切である。



③示された式を、具体的な場面と関連付けて読むことができるようにする(対応設問3(1))

式を用いて数量の関係を表したり、具体的な場面と関連付けて式を読んだりすることができるようになることが重要である。

指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、二通りの式を、国語辞典と漢字辞典を並べる場面とそれぞれ関連付けて、式の中の数値や演算は何を表しているかを明らかにして説明する活動が考えられる。その際、 $5 \times 28$  について、一つ分の大きさが5で、それが28個あることから、5や28が何を表しているのかを考え、5が国語辞典1冊の厚さ「5cm」であることと、28が国語辞典の冊数「28冊」であることを見だし、下の図のように、 $5 \times 28$  は国語辞典28冊を並べた長さであることを捉えるなど、式を読むことができるようにすることが大切である。



④筆算を具体物や図に表すことで、式と関連付けて考察できるようにする(対応設問3(4))

筆算を具体物や図と関連付けて考察したり、具体物の操作や、図で考えた結果を式に表したりすることで、筆算を式と関連付けて考察できるようにすることが重要である。

指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、下の図のように、除法の筆算の手順を具体物や図に表したり、式に表したりする活動が考えられる。その際、除法の筆算が、被除数の66を60と6に分けて計算するという考え方に基いていることを理解できるようにすることが大切である。

なお、具体物や図の操作から示唆された66を60と6に分けて計算するという考え方が、第1学年で学習した、十を単位とした数の見方や2位数の表し方に基いていることを理解できるようにすることも大切である。

66 ÷ 3の筆算	具体物や図	式
手順1 66を3で割る。 $\begin{array}{r} 3 \overline{)66} \end{array}$	10を⑩、1を①で表して、 ⑩6個と①6個を3等分 します。 	$66 \div 3 = (60 + 6) \div 3$
手順2 60を3で割る。 $\begin{array}{r} 20 \\ 3 \overline{)66} \\ \underline{6} \phantom{0} \\ 6 \phantom{0} \\ \underline{6} \phantom{0} \\ 0 \phantom{0} \end{array}$	⑩6個を3等分します。 	$60 \div 3 = 20$

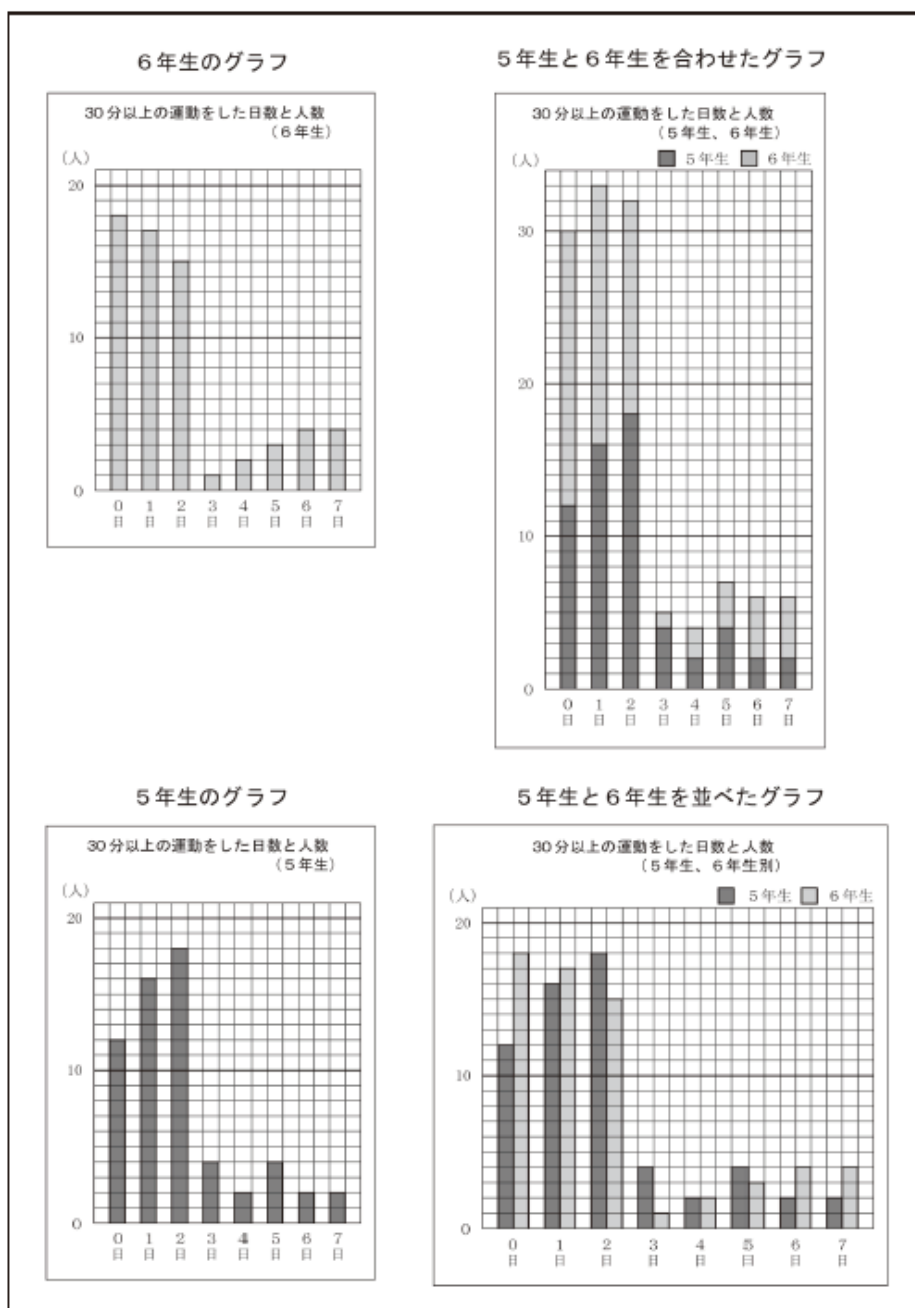
60 ÷ 3 = 20のことですね。



⑤複数のグラフを比べ、見いだしたことを表現できるようにする(対応設問4(3))

目的に応じて分類整理された複数のグラフを比べ、見いだしたことを、他者に分かりやすく表現できるようにすることが重要である。

指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、6年生のグラフと、5年生と6年生を合わせたグラフを比べる活動が考えられる。その際、一つのグラフの部分と部分や、複数のグラフを比べ、同じところや似ているところ、少し違うところや大きく違うところを見いだすことができるようにすることが大切である。また、グラフから特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことを、グラフのどの部分からどのように考えたのかを明らかにして、他者に分かりやすく説明できるようにすることも大切である。さらに、次のページの図のように、5年生のグラフや、5年生と6年生を並べたグラフも併せて提示し、棒グラフの表し方を変えることで、比べやすくなったり分かりやすくなったりすることに気付くことができるようにすることも大切である。



「平行な二つの直線にはさまれた二つの図形の面積を比べよう」  
 ～平行線の性質と図形の意味や性質を基に、面積の公式を考察する～

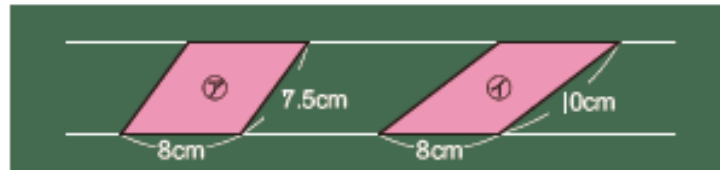
(実施対象学年)  
 第5学年

① 高さの具体的な長さが分からない平行四辺形を長方形に直して面積を比べる。



教師

平行な2本の直線を使って、平行四辺形をつくりました。  
 ㊦と㊧の平行四辺形の面積は、どちらが大きいですか。



平行四辺形の面積は、底辺と高さが分かれば求めることができます。



平行四辺形の面積の公式は、底辺×高さなので、  
 底辺と高さがそれぞれ等しければ、面積は等しくなると分かりますね。

㊦と㊧の底辺は8cmなので等しいですね。



高さが何cmか書かれていないので分かりません。

高さは7.5cmと10cmではないですか。



底辺と高さは垂直になっています。  
 だから、8cmの辺を底辺とすると、7.5cmや10cmは高さではありません。



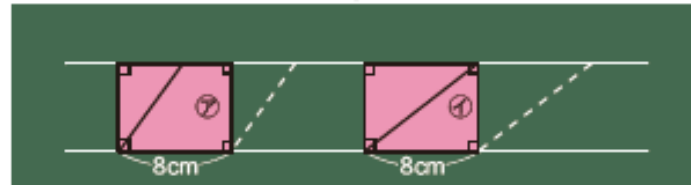
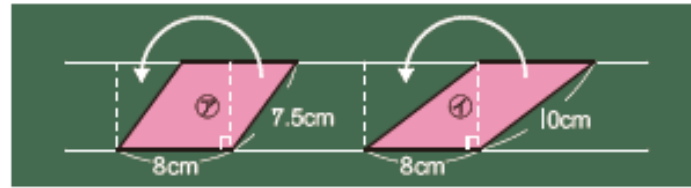
高さが何cmか分からないので、面積は比べられませんね。



高さが何cmか分からないと面積を比べることはできないのでしょうか。



二つの平行四辺形を長方形にすると比べることができます。



長方形の縦は平行な2本の直線の幅になっていますね。  
高さが何cmか分かりませんが、同じ長さになっていることが分かります。



この長方形の縦の長さは、元の平行四辺形の高さになりますね。



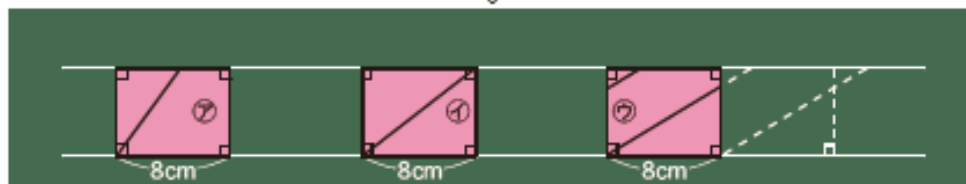
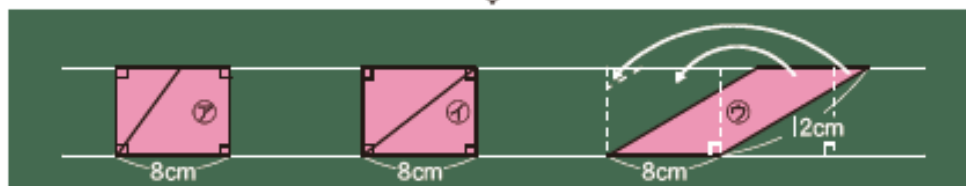
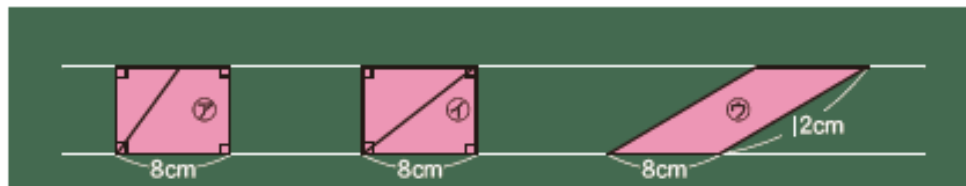
この長方形の横は、元の平行四辺形の底辺になっています。



同じ長方形になったので、㉗と㉘の面積は等しいですね。  
どんな平行四辺形でも、底辺と高さがそれぞれ等しければ、面積は等しくなるでしょうか。



㉙の平行四辺形も、㉗と㉘の面積と等しくなるでしょうか。



㉙も、㉗と㉘と同じ長方形になったので、底辺と高さがそれぞれ等しければ、面積は等しくなるといえます。

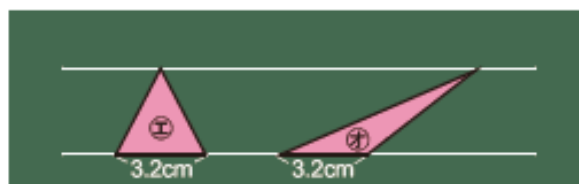
**ポイント**

底辺の長さが等しいとき、高さの具体的な長さが分からなくても、高さが等しいと分かれば平行四辺形の面積は等しくなることを実感を伴って理解できるようにすることが大切である。

## ② 高さの具体的な長さが分からない三角形の面積を比べる。



平行な2本の直線を使って、三角形をつくりました。  
㊦と㊧の三角形の面積はどちらが大きいですか。



三角形の面積は、底辺と高さが分かれば求めることができます。

㊦と㊧の底辺は3.2cmなので等しいですね。



高さは何cm分かりませんが、平行四辺形のとくと同じように、  
三角形の場合も、高さが平行な2本の直線の幅なので、  
㊦と㊧の高さは同じ長さになっていることが分かります。



どちらの三角形も、 $3.2 \times (\text{高さ}) \div 2$  で面積を表すことができます。  
どちらの三角形も高さが同じなので、面積は等しくなります。



例えば、高さを4cmだとすると、どちらも $3.2 \times 4 \div 2$ で同じ式になります。  
だから、面積は等しくなります。



平行四辺形のとくと同じように、底辺と高さがそれぞれ等しければ、  
三角形の面積も等しくなることが分かりますね。

### ポイント


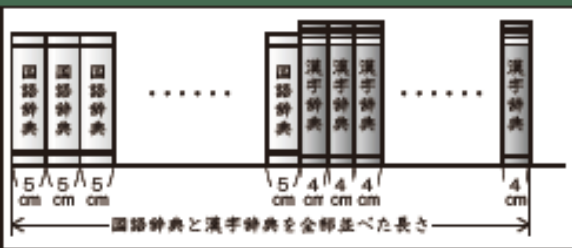






三角形や平行四辺形の面積の公式についての理解を深め、底辺の長さが等しいとき、高さの具体的な長さが分からなくても、高さが等しいと分かれば三角形や平行四辺形の面積は等しいと実感を持って判断できるようにすることが大切である。

## ③ ほかの図形についても、面積の比べ方を考える。



台形の場合ではどうなるのでしょうか。

<小学校算数授業アイデア例②> (設問3に対応)

<p>「本を並べたときの長さを工夫して求めよう」 ～計算に関して成り立つ性質を活用し、場面を新たに捉える～</p>	<p>〈実施対象学年〉 第4学年</p>
<p>① 場面を式で表す。</p>	
<p>厚さ5cmの国語辞典と厚さ4cmの漢字辞典を並べます。</p>	
 <p>国語辞典と漢字辞典を、種類ごとに並べます。学級の人数は28人です。28人分並べると、何cmになるのかな。</p>	 <div style="float: right; padding-left: 20px;"> <math>5 \times 28 + 4 \times 28 = 252</math> 252cm         </div>
<p>② 分配法則を用いて ( ) を用いた式に表す。</p>	
 <p><math>5 \times 28 + 4 \times 28</math>は、分配のきまりで <math>(5 + 4) \times 28</math>と表すことができますね。</p>	<div style="background-color: #d4edda; padding: 5px; border: 1px solid #c3e6cb;"> <math>5 \times 28 + 4 \times 28 = (5 + 4) \times 28</math> </div>
<p>③ ( ) を用いた式から場面を新たに捉える。</p>	
 <p>教師</p>	<p><math>(5 + 4) \times 28</math>という式から、場面を考えます。どのようなことを表しているのでしょうか。</p>
	<p><math>(5 + 4)</math> を28倍していますね。</p>
	<p><math>(5 + 4)</math> は何を表しているのかな。</p>
	<p><math>(5 + 4)</math> は、国語辞典1冊の厚さと漢字辞典1冊の厚さを合わせた長さを表しています。</p>
	<p>国語辞典と漢字辞典をセットにして、一人分ずつ並べたということですね。</p>
<p><b>ポイント</b></p>	<p>計算に関して成り立つ性質を活用し、場面を新たに捉えることができるようにすることが大切である。</p>

④ 並べる本が3種類になっても、同じように工夫できるかを考える。




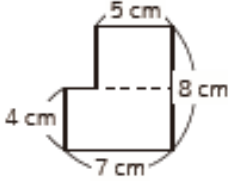
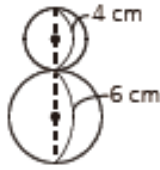



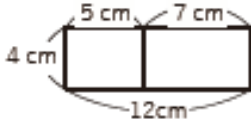

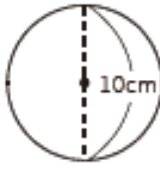
国語辞典と漢字辞典のほかに、もう1種類、厚さ1cmの国語の教科書を並べても、同じように考えられるかな。

ポイント

「本の種類を増やしても同じように考えられるかどうか」など、発展的に考えようとする態度を育むことが大切である。

単元の活動例

ある場面を、一つの捉え方に基づいて式に表した後で、計算に関して成り立つ性質を用いて( )を用いた式に表し、その式を読むことで場面を新たに捉えることができるようにすることが大切である。こうした活動は、日常の場面だけでなく、次のような学習場面でも考えられる。

おはじきの数の求め方 (第4学年)	複合図形の面積 (第4学年)	円周の長さ (第5学年)
 <p style="text-align: center;"><math>5 \times 4 + 4</math></p>	 <p style="text-align: center;"><math>4 \times 5 + 4 \times 7</math></p>	 <p style="text-align: center;"><math>4 \times 3.14 + 6 \times 3.14</math></p>
<p style="text-align: center;"> <math>5 \times 4 + 4</math>  <math>= 5 \times 4 + 1 \times 4</math>  <math>= (5 + 1) \times 4</math>  <math>= 6 \times 4</math> </p>	<p style="text-align: center;"> <math>4 \times 5 + 4 \times 7</math>  <math>= 4 \times (5 + 7)</math>  <math>= 4 \times 12</math> </p>	<p style="text-align: center;"> <math>4 \times 3.14 + 6 \times 3.14</math>  <math>= (4 + 6) \times 3.14</math>  <math>= 10 \times 3.14</math> </p>
 <p>6個のまともりが4つあると考えることができますね。</p>  <p style="text-align: center;"><math>6 \times 4</math></p>	 <p>縦4cm、横12cmの長方形の面積と同じになりますね。</p>  <p style="text-align: center;"><math>4 \times 12</math></p>	 <p>直径10cmの円の円周の長さと同じになりますね。</p>  <p style="text-align: center;"><math>10 \times 3.14</math></p>

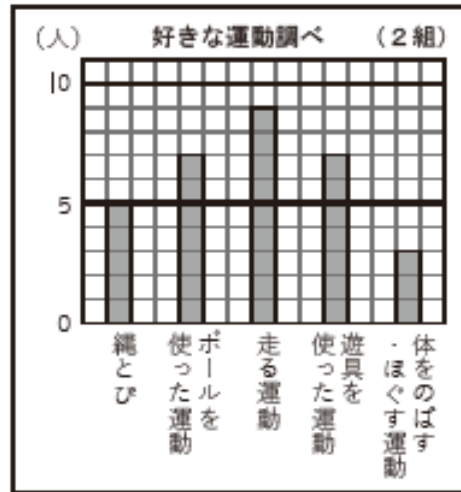
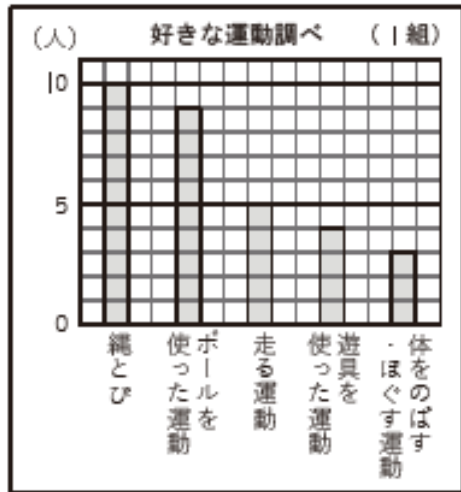
**「好きな運動を調べよう」**  
 ～目的に応じて、適切なグラフに表す～

(実施対象学年)  
第3学年

**① 各学級のグラフを見て特徴や傾向を捉え考察する。**



3年1組と3年2組の好きな運動調べの結果を、下のような棒グラフに表しました。



1組でいちばん人気のある運動は「縄とび」ですね。



2組でいちばん人気のある運動は「走る運動」ですね。



1組と2組を比べると、好きな運動の人数が違うところもあるし、同じところもありますね。



1組と2組を合わせると、どの運動がいちばん人気があるのでしょうか。



1組と2組のグラフから、いろいろなことが分かりそうですね。どんなことが分かるか、ノートに書いてみましょう。

縄とびは、1組と2組の人数の差がいちばん大きいです。体をのぼす・ほぐす運動は、1組も2組も同じ人数です。

1組と2組を合わせると、1番目に多いのはボールを使った運動、2番目に多いのは縄とび、3番目に多いのは走る運動です。

ボールを使った運動は、1組が9人、2組が7人です。1組と2組を合わせると、1番目に多いです。

**ポイント**

複数のグラフを比べ、同じところや似ているところを見だし、考察したことを表現できるようにすることが大切である。

② グラフを見て考察したことについて話し合う。

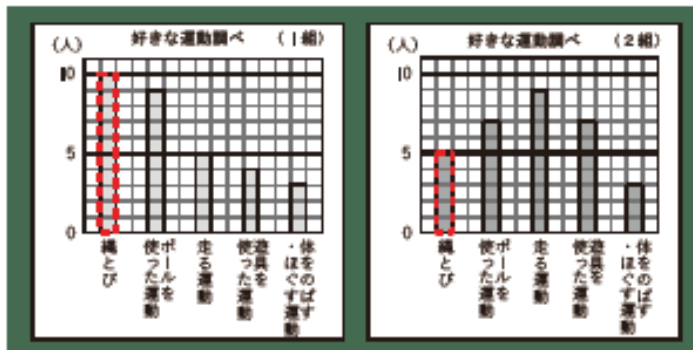


1組と2組で、人数の差がいちばん大きい運動は「縄とび」です。5人違います。

グラフのどこを見て、そのことが分かったのですか。



1組の「縄とび」の部分と2組の「縄とび」の部分を見て比べました。



1組と2組を合わせて考えると、1番目に多いのは「ボールを使った運動」、2番目に多いのは「縄とび」、3番目に多いのは「走る運動」ということが分かりました。



「ボールを使った運動」は1組が9人、2組が7人ですね。



1組と2組のそれぞれのグラフを見ても、「ボールを使った運動」が1番目に多いようには見えませんね。



1組と2組が別々のグラフだと、みんなが気付いたことが分かりにくいですね。

気付いたことが分かりやすく伝えるグラフに表すことはできるでしょうか。



ポイント

気付いたことを話し合うことを通して、1組と2組が別々のグラフでは分かりにくいことがあるということに気付くことができるようにし、適切なグラフに表す必要性を生み出すことが大切である。

③ 目的に応じて適切なグラフに表し、表したグラフのよさについて話し合う。

私は、1組と2組の違いがよく分かるようにしたいな。



1組と2組の棒を、それぞれ並べて表します。

私は、1組と2組の合計がよく分かるようにしたいな。



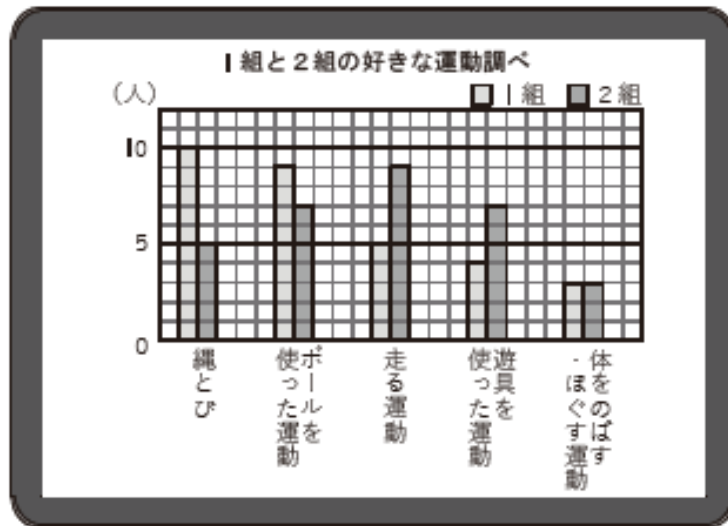
3年生の合計を求めて、グラフに表します。

私は、1組と2組のそれぞれの人数も合計も分かるようにしたいな。



1組のそれぞれの棒の上に、2組の棒を付け足して表します。



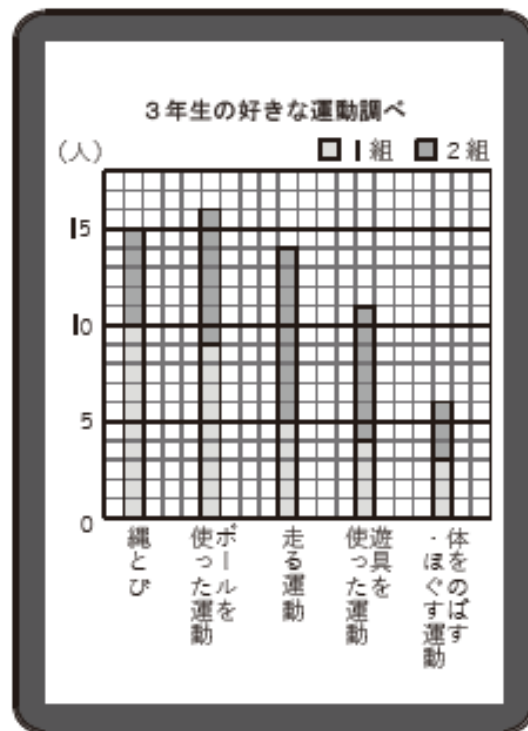
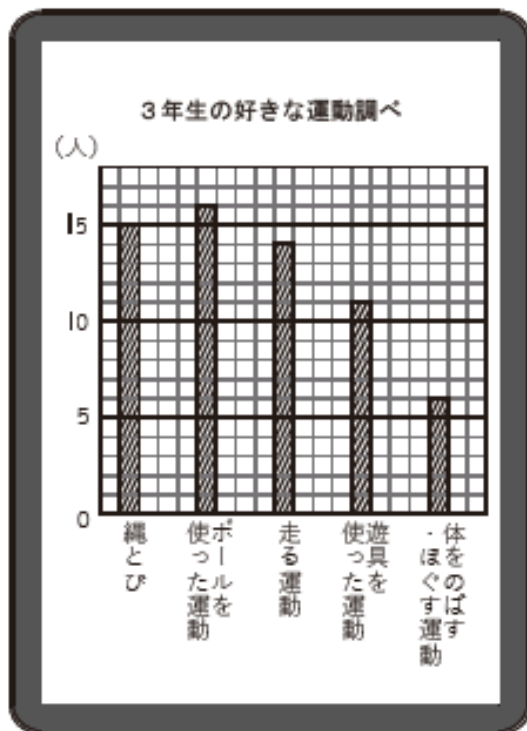


下の二つのグラフは、どちらも「ボールを使った運動」がいちばん人気があるということが分かりやすいですね。

右下のグラフは、3年生全体も1組と2組それぞれの人数もよく分かりますね。



上のグラフは、1組と2組の違いや同じところがよく分かりますね。



#### ポイント

目的に応じて、どのようなグラフを作るのか考えることができるようにすることや、同じデータでも、伝えたいことによって表し方を変えることができることに気付くようにすることが大切である。

### (3) 中学校国語

#### ①漢字を正しく用いる態度と習慣を養う(対応設問3二)

漢字の指導においては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を読んだり書いたりすることができるように指導することが大切である。

漢字の書きについては、小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字1,026字について、中学校修了までに文や文章の中で使い慣れる必要がある。そのため、文章の中ばかりではなく、「A話すこと・聞くこと」の学習の中や、他教科等の学習や日常の会話の中でも漢字の書きについて意識するよう指導することが大切である。また、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことも大切である。その際、必要に応じて辞書を引くことを習慣付けることが有効である。さらに、1人1台端末等を活用して文字を入力する際にも、漢字がもつ意味に留意して、適切に選択する力を養うことが重要である。

なお、漢字の読みについては、学習指導要領の学年別漢字配当表に示されている漢字1,026字に加え、中学校修了までに学年別漢字配当表以外の常用漢字の大体を読むことを求めている。

### (4) 中学校数学

課題が見られた設問なし。

### (5) 中学校英語

#### ①意見文を読んで、要点を捉えることができるようにする

意見文を読んで、要点を捉えるためには、文章全体を通して読み、複数の情報の中から書き手が最も伝えたいことは何かを判断して捉えることが重要である。

指導に当たっては、以下のような言語活動に取り組むことが考えられる。

- ・ 地球温暖化などの環境問題に関する説明文や意見文を読み、イラストや写真、図表なども参考にしながら、筆者の主張を数文でまとめる活動
- ・ 地球温暖化などの環境問題に関する説明文や意見文を読んで筆者の主張を捉えた後に、自分ができることなどについてペアやグループで尋ね合ったり伝え合ったり、さらにそれを簡潔に書いて表現したりする活動

言語活動を行うに当たっては、繰り返し用いられている語句や同じ内容を言い換えている表現、文章中の問いかけなどを手掛かりにして最も大切な語句や文を選んだり、段落内の文章の構成を把握したりすることが大切である。例えば、本設問であれば、As I explained という表現に着目し、後に位置する情報が筆者の最も伝えたい内容であると捉えることが考えられる。

なお、平成31年度(令和元年度)【中学校】英語7のように、複数の段落からなる文章を読んで、要点を捉えることも大切である。その際には、段落相互の関係を捉える指導などが考えられる。

## 5 結果を踏まえた取組の重点

### (1) 校内研修の充実

伊勢市では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、すべての学校において「わかる授業」の実施を目指し取り組んでいます。

各校の校内研修では、学習指導要領に示されている資質・能力を育むため、「指導と評価の一体化」について研修を深めるとともに、見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動の研修を進めています。

また、目標基準準拠検査（CRT）と WEB-QU（よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート）を実施・活用し、よりよい集団づくりと授業改善の取組を充実させています。

これらの取組を充実させるため、指導主事を各学校に派遣し、各校の課題に応じた指導・支援を行っています。

### (2) 令和5年度全国学力・学習状況調査等の結果の活用

令和5年度全国学力・学習状況調査や CRT 等の結果を踏まえ、学校訪問等により学力向上の取組について各学校と情報共有を行い、子どもたちの確かな学力の定着を図っています。

また、全国学力・学習状況調査や CRT 等の学力調査を用いた分析の仕方や、授業への生かし方について、研修会を行っています。

### (3) 学力向上推進事業の研究指定校の研究とその成果の普及

学力向上推進事業の教育課程に係る研究指定校（小学校2校、中学校1校）で、令和5年度全国学力・学習状況調査や CRT 等で見られた課題を解決する授業改善の取組や、ICT を活用した各教科での資質・能力の育成を目指した授業づくりの研究の一端を公開します。

教職員へ積極的な研究発表会への参加を促すとともに、その成果を校内研修等で活用します。

### (4) ICT 機器を活用した授業改善

伊勢市では、日常的に授業の様々な場面で、タブレット端末等 ICT 機器が活用されています。「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、タブレット端末等 ICT 機器を効果的に活用し、「個別最適な学び」、「協働的な学び」を一体的に進め、授業改善につなげていきます。

### (5) 家庭・地域等との連携

各学校で、家庭学習の手引や学校便り等を通じて、令和5年度全国学力・学習状況調査等の結果を説明することで、子どもたちの生活習慣・学習習慣・読書習慣等の現状を家庭や地域へ発信しています。

研修会や学校訪問をとおして、各学校に家庭学習を充実させるための声掛けをしていきます。また、タブレット端末に導入されているドリルソフトを使った学習や三重県教育委員会作成のワークシート等の活用を進め、家庭学習の改善を図っています。

<参考文献>

- ・令和5年度全国学力・学習状況調査報告書（小学校国語）
- ・令和5年度全国学力・学習状況調査報告書（小学校算数）
- ・令和5年度全国学力・学習状況調査報告書（中学校国語）
- ・令和5年度全国学力・学習状況調査報告書（中学校数学）
- ・令和5年度全国学力・学習状況調査報告書（中学校英語）
- ・令和5年度全国学力・学習状況調査報告書（質問紙調査）